



八雲琴譜

子 11
5686



加	詔	志	珥	風	磨	琴	
爾	琴	芝	那	迺	吳	波	八
傳	波	大	母	志	理	志	雲
波	此	神	阿	羅	迺	毛	琴
利	國	迺	留	倍	文	依	譜
多	迺	志	依	珥	爾	波	序
禮	琴	羅	留	通	久	珥	
婆	彈	倍	波	布	須	阿	
自	山	給	天	八	志	禮	
然	珥	比	下	雲	伎	杼	
其	正	斯	造	迺	波	母	
由	揚	天	良	琴	神	子	



雲琴先生清壽

神傳ハ西ノ五ノ傳

板倉菴夢今重涂

中山藏

波。	波。	幣。	烏。	留。	利。	迺。	那。
琴。	自。	留。	呂。	字。	互。	頃。	禮。
迺。	迺。	字。	賀。	又。	後。	日。	婆。
緒。	序。	淺。	美。	令。	序。	珥。	那。
迺。	珥。	茅。	珥。	年。	字。	毛。	喇。
思。	伊。	原。	詣。	彌。	乞。	詣。	加。
比。	幣。	追。	來。	生。	比。	來。	斯。
與。	禮。	婆。	互。	迺。	珥。	斯。	珂。
禮。	婆。	羅。	制。	大。	於。	字。	玖。
留。	古。	那。	知。	御。	古。	都。	互。
布。	々。	留。	爾。	祭。	勢。	珥。	嘉。
芝。	珥。	縁。	乞。	遠。	津。	歸。	永。

松。	々。	珥。	詣。	互。	多。	琴。	珂。
風。	伎。	普。	互。	文。	麻。	波。	梨。
迺。	渡。	玖。	作。	政。	迺。	甕。	那。
千。	利。	其。	理。	迺。	年。	栗。	良。
代。	多。	志。	初。	頃。	麻。	迺。	年。
毛。	留。	羅。	芝。	日。	祿。	中。	可。
盡。	波。	倍。	與。	吾。	玖。	山。	芝。
勢。	彼。	迺。	利。		此。	琴。	抑。
努。	琴。	天。	空。	大。	道。	主。	此。
志。	彈。	下。	蟬。	神。	珥。	雅。	二。
羅。	山。	爾。	迺。	宮。	志。	阿。	絃。
倍。	迺。	比。	寺。	珥。	斯。	良。	迺。

序ノ一

子^ヲ唯^タ比^ヒ登^ト筋^{スチ}登^ト美^ミ珥^ニ毛^モ迺^ノ斯^シ互^テ
 阿^ア多^タ幣^ヘ通^ツ安^{アム}政^{ジヤウノ}五^{イツ}季^{トセトイフ}云^{トシノ}五^サ月^{ツキ}
 婆^バ加^カ利^リ出^デ雲^{ウン}尊^{ソン}澄^{テイ}宿^{シュク}禰^ニ

中臣正蔭書

序ノ二



毎代大神
 大神のまゝ
 出雲尊孫宿禰
 出雲尊孫宿禰

八雲天普



聖玉泉画
印

二階の神事

捨たさるるを

正明の洞へ

浴聖の湯

大神の御座

古きよき山

あはれき山

や青丸利也を無き古社の跡緒乃琴々初瀬川
あふれりし水一とみ水谷竹の中ら無の造り
あはれりしん山あはれりし山あはれりし山
天竹香弓はさるるの振舞ふさるる山あはれりし
うの山ふ布一山質直みほさるる山あはれりし
ら及石之古或る山あはれりし山あはれりし
一山山河也さるる山梁棟の葺山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし
さるる山あはれりし山あはれりし山あはれりし

八雲立山雲國天日隅宮上陸也者也 天下に於

大津大己貴尊於津實以降之種小あわれは

素戔嗚大神入天衣冠はみくひし 降居言也

可くは天乃生乎矢天の降居はさくもちるく神の

息乎言たりてく入る降をいひむし 降居言律

成其乎ちる言中 阿く言のいせも乃生乎天な

美乎言に降 示其を降居言は事は言はりつ

これ言及中山言 降居言は事は言はりつ

言に降大宮上陸 降居言は事は言はりつ

...

...

...

...

...

...

...

...

...

序ノ三

八雲立山雲國天日隅宮上陸也者也 天下に於
大津大己貴尊於津實以降之種小あわれは
素戔嗚大神入天衣冠はみくひし 降居言也
可くは天乃生乎矢天の降居はさくもちるく神の
息乎言たりてく入る降をいひむし 降居言律
成其乎ちる言中 阿く言のいせも乃生乎天な
美乎言に降 示其を降居言は事は言はりつ
これ言及中山言 降居言は事は言はりつ
言に降大宮上陸 降居言は事は言はりつ

八雲立山雲國天日隅宮上陸也者也 天下に於
大津大己貴尊於津實以降之種小あわれは
素戔嗚大神入天衣冠はみくひし 降居言也
可くは天乃生乎矢天の降居はさくもちるく神の
息乎言たりてく入る降をいひむし 降居言律
成其乎ちる言中 阿く言のいせも乃生乎天な
美乎言に降 示其を降居言は事は言はりつ
これ言及中山言 降居言は事は言はりつ
言に降大宮上陸 降居言は事は言はりつ

八雲集

久しき大徳神の徳を感ずるに
 多に徳を感ずるに
 竹の子と二結の琴波作の筆
 おやと云ふ海の子に
 日向の月と
 赤火入の多大徳神の徳を感ずるに
 我大神の法を感ずるに
 安政五年と云ふに
 作草文情書

字四

八雲集 言

三也乃と云中あつたてり
 此山川ありて
 へ天中乃と云
 そ乃と云も勤
 乃と云も勤
 神乃と云も勤
 さあ此中乃と云
 乃と云も勤

と一も、舟のこころハ雲を舞ひしるも、古の神乃幸
 塔に、雲を舞ひしるも、古の神乃幸
 此に、雲を舞ひしるも、古の神乃幸
 き、古の神乃幸
 る、古の神乃幸
 こ、古の神乃幸
 り、古の神乃幸
 ら、古の神乃幸
 こ、古の神乃幸
 ら、古の神乃幸
 こ、古の神乃幸
 ら、古の神乃幸
 こ、古の神乃幸
 ら、古の神乃幸
 こ、古の神乃幸

倭國あがりも、二柱は祖神あがりに、由河海鏡あええり
アマテリマスヒノオホ、ミ
 天照坐日大は神天石宮あ隠るを、おはしおしはる
アノ カクユミニ
 下の香弓を、六も興並へ、茅と女を、持て推あ
タクマ ハラ
 言天の事も、常にお往らる天地自然の、け
オハシマシ
 あれりる。是れも、天地のはじまりの時、ありし
タノレ
 めでた子。倭あめりる。大穴牟遲命は、兄弟八十神
タシナ
 窮めし、須佐之男大神の法許、あま出せし
オホカミ
 むりる。大神の生、大刀生、弓矢と、天の沼、吾を、めし

物^{タマ}を^コさ^レて^ハい^ハる。そ^レを^ヤり^テ十^ノ律^ヲを^シめ^テし^メる。
 大國^{オホクニ}主^ノ大神^{オホカミ}として^テ天^{アメノ}の下^ノを^ウ主^レ領^{ハキ}む^ル。八^ノ紘^ヨの^ニ中^ニを^ユく^ル。
 し^テい^ハる。そ^レを^シめ^テし^メる。そ^レを^シめ^テし^メる。そ^レを^シめ^テし^メる。
 其^ノ心^{ココロ}を^シめ^テし^メる。其^ノ心^{ココロ}を^シめ^テし^メる。其^ノ心^{ココロ}を^シめ^テし^メる。
 あるも然^シら^ズ。此^ノ大神^{オホカミ}の^オ大^ホの^ニ國^{クニ}を^シめ^テし^メる。
 む^リて^ハ石^{イシ}不^フ取^ケり^テい^ハる。お^しは^しけ^ハい^ハる。お^しは^しけ^ハい^ハる。
 の^ニ國^{クニ}ある。他^ノを^シめ^テし^メる。伏^フ玉^{タマ}裁^{サイ}の^ニ樂^{ラク}を^シめ^テし^メる。
 神^{カミ}農^{ノリ}の^ニ樂^{ラク}を^シめ^テし^メる。扶^シ桑^ノと^シて^ハ黄^{ワウ}帝^{テイ}の^ニ樂^{ラク}を^シめ^テし^メる。
 云^ハり^テい^ハる。五^ノ音^{オン}六^ノ律^{リツ}の^ニ論^{ロン}を^シめ^テし^メる。い^ハる。い^ハる。い^ハる。

知^チる^ル。予^{コノ}知^チる^ル。神^{カミ}武^ブの^ニ術^{ジュツ}を^シめ^テし^メる。
 桑^ク儀^ギを^シめ^テし^メる。印^{イン}を^シめ^テし^メる。極^{キョク}を^シめ^テし^メる。
 六^ノ律^{リツ}を^シめ^テし^メる。物^{モノ}を^シめ^テし^メる。五^ノ音^{オン}を^シめ^テし^メる。
 十^ノ二^ノ律^{リツ}の^ニ論^{ロン}を^シめ^テし^メる。い^ハる。い^ハる。い^ハる。い^ハる。
 勝^{カチ}敗^ヘの^ニ二^ノを^シめ^テし^メる。察^{サツ}知^チを^シめ^テし^メる。い^ハる。い^ハる。い^ハる。
 め^クる^ル。條^{ジョウ}を^シめ^テし^メる。又^{マタ}療^{リョウ}病^{ビョウ}を^シめ^テし^メる。方^{カタ}を^シめ^テし^メる。
 疾^{ヤマヒ}病^{ビョウ}の^ニ條^{ジョウ}を^シめ^テし^メる。又^{マタ}療^{リョウ}病^{ビョウ}を^シめ^テし^メる。方^{カタ}を^シめ^テし^メる。
 あるも。五^ノ音^{オン}六^ノ律^{リツ}の^ニ論^{ロン}を^シめ^テし^メる。い^ハる。い^ハる。い^ハる。

是くやえ天^{ヒロ}をみ^{キコ}た^{アマクモ}か^{タカ}は^ミあ^シの^ヨら^シは^シめ^{マツ}の^シめ^シ
 ん^{アノ}子^{シタ}天^{アノ}の下^{シタ}を^{アソビ}ね^ヒむ^ヒと^モの^モの^ヒる^{モト}え^{ヨリ}来^{ヒト}人^シの^シ母^シを^シ
 悦^{ヨロコ}び^ヒむ^ヒる^ヒ。格^{アソビ}楽^ヒの^ヒ業^ヒあ^ヒあ^ヒら^ヒて^ヒあ^ヒら^ヒぬ^ヒめ^ヒる^ヒあ^ヒど^ヒあ^ヒ
 る^ヒま^ヒら^ヒで^ヒ。皇^{スミラ}神^{ミミ}國^{クニ}の^ヒ子^ヒ。由^ユ縁^エを^ヒ志^シし^ヒめ^ヒ天^{アノ}地^{ツチ}の^ヒ
 神^{カム}あ^ヒが^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒる^ヒ。呂^シ律^{リョ}を^ヒ大^{オホ}神^{カミ}ふ^ヒ向^ム天^{アノ}津^ツ日^ヒ嗣^{ツキ}り^ヒ
 大^{オホ}法^{ホウ}降^カえ^ヒを^ヒ社^{イノ}の^ヒ西^{ヨモノ}海^{ウミ}流^ナる^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒ
 なる^ヒ。神^{カム}樂^{ガク}あ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒ。あ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒ
 系^{イト}た^ヒえ^ヒる^ヒ天^{アノ}地^{ツチ}と^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒ。侍^{ツツ}も^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒ
 ざる^ヒべ^ヒ。伊^イ弼^ニの^ヒ二^{フタ}名^ナも^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒあ^ヒら^ヒる^ヒ

上序ノ八

わらわじ鹿を

あつらひのあまは

秋のあまは

ゆふあまは

あまは

あまは

あまは

あまは



天日隅宮御杖代兼國造出雲尊孫宿禰

八雲之出守の

舞をたふたの松子

峯旗のよき

生い初け

出

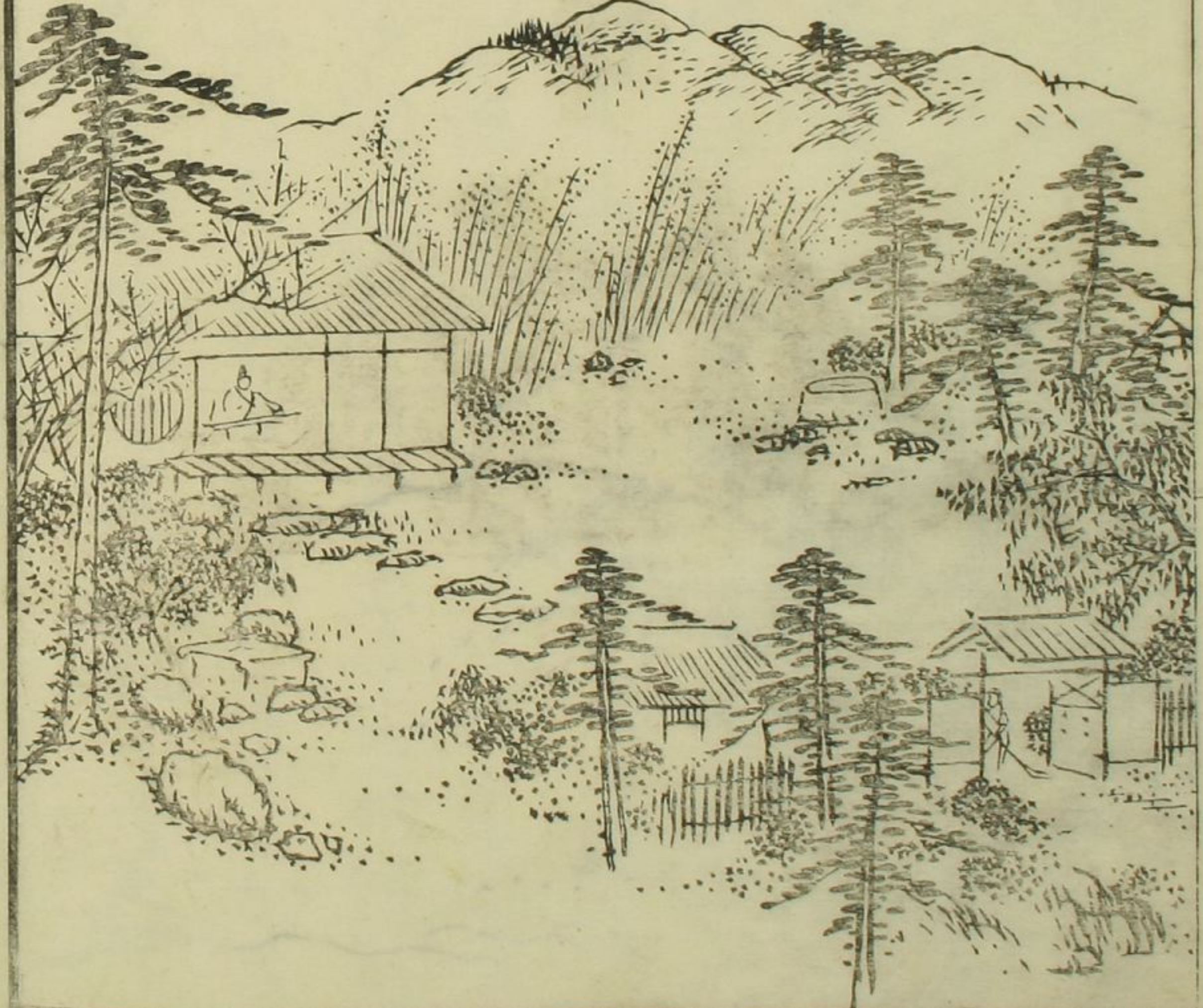
神代年

〜〜〜

心で

〜〜〜

神使彦出雲備孝宿禰



四八

中山再と下りつ海山

〜〜〜

神代年

〜〜〜

〜〜〜

中山のた

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜の 陽

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜



四條前大納言藤原隆生卿

号舟のよふて

信々んこつ路の

無けりまらたつ

あけ

綾小路前大納言源有長卿

号の志

神はまのそけ

あつてのあま

少路の言

醍醐大納言藤原忠順卿

号の志

あまのそけ

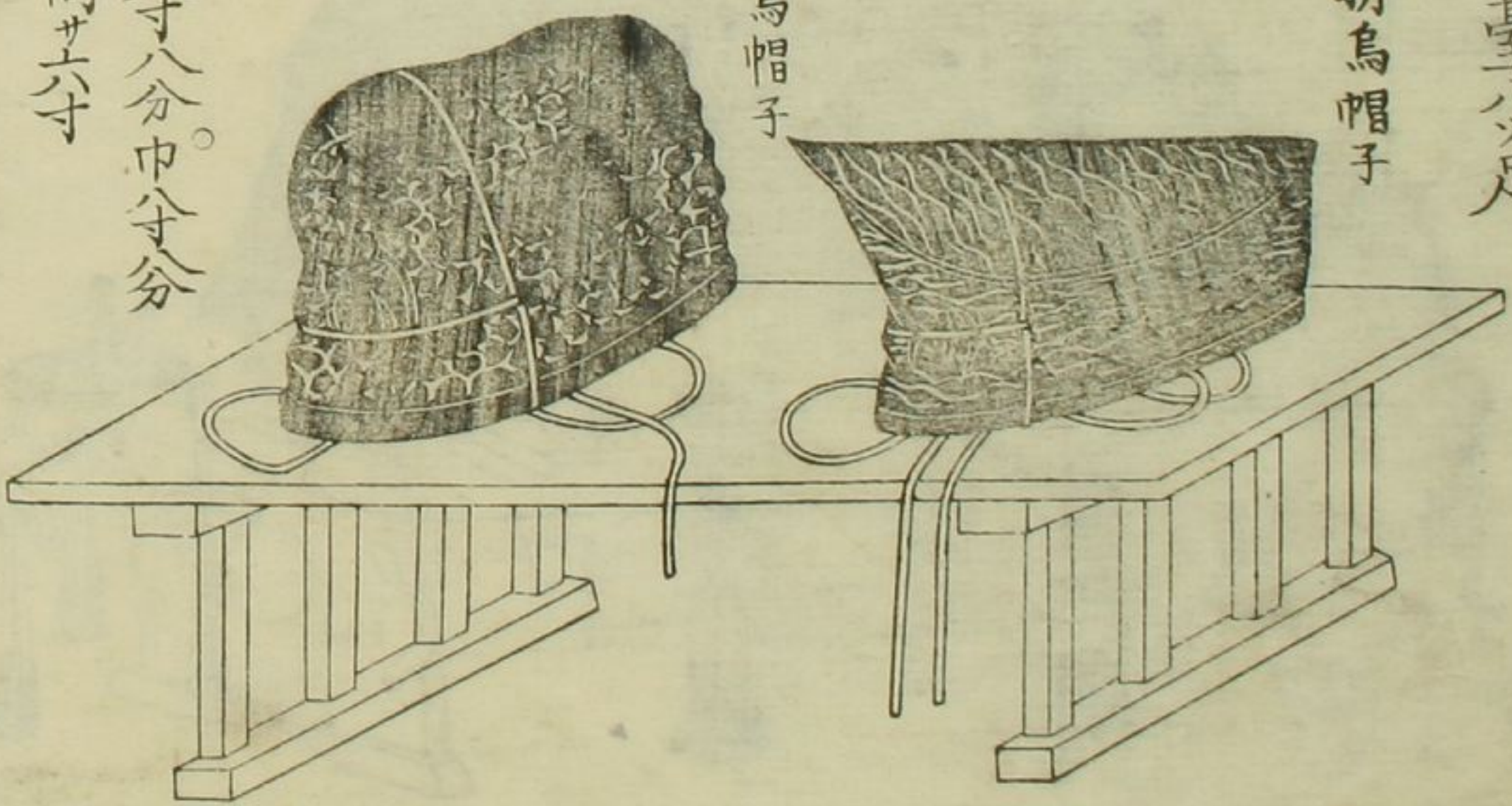
神の代の弓弦の

あまのそけ

神寶琴臺八寸足

八雲折烏帽子

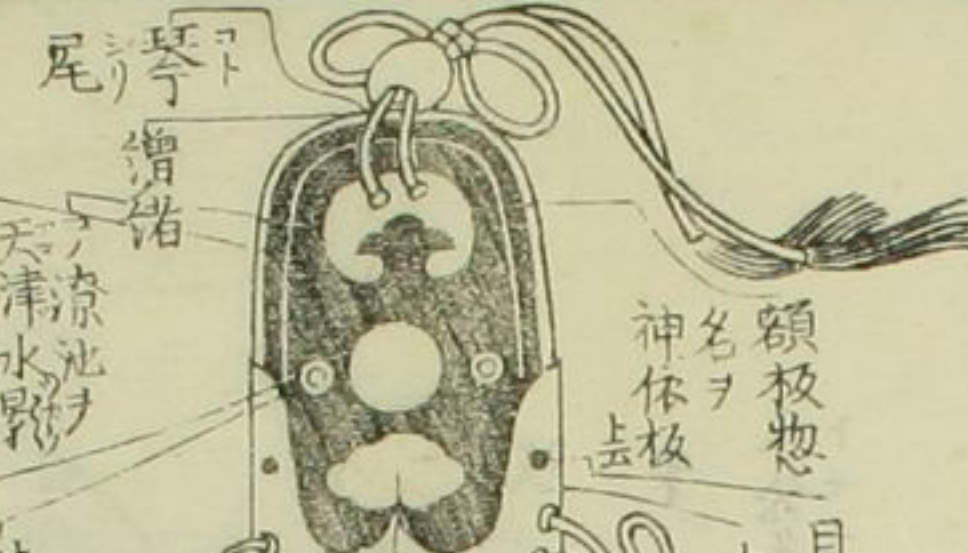
全立烏帽子



二尺八分中寸分
足高サ六寸

圖ノ二

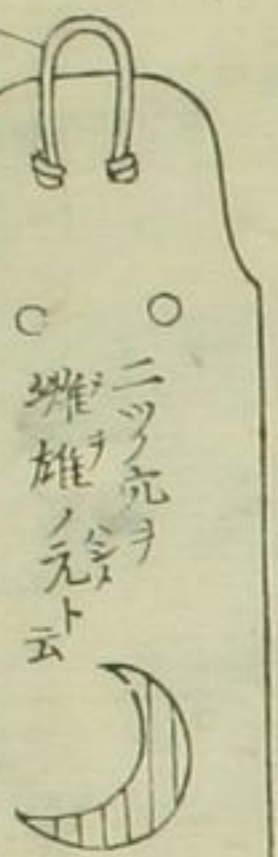
八雲琴名所寸法惣長三尺六寸頭巾四寸一分尾巾三寸八分



額板惣長
目釘上云是テ神依板ヲ固クシムル也
左右コトヲ就服ト云
左右ノ緒ヲ質端上云
ケンサキヲ劔尾ト云
以竹造之杉桐ニテ造凡必存竹節
中ツ空己ヨリ水節ヲテ尺寸
六寸五分
本ツ空
八寸五分
四寸
天門下ニ
セリ種
松板
琴下
頭
共
上云

杵栗上云
日壺形ト云

表日壺形凡基水影八雲形神圍龍口
裏雄雄元皆大和錦ニテハルヘシ

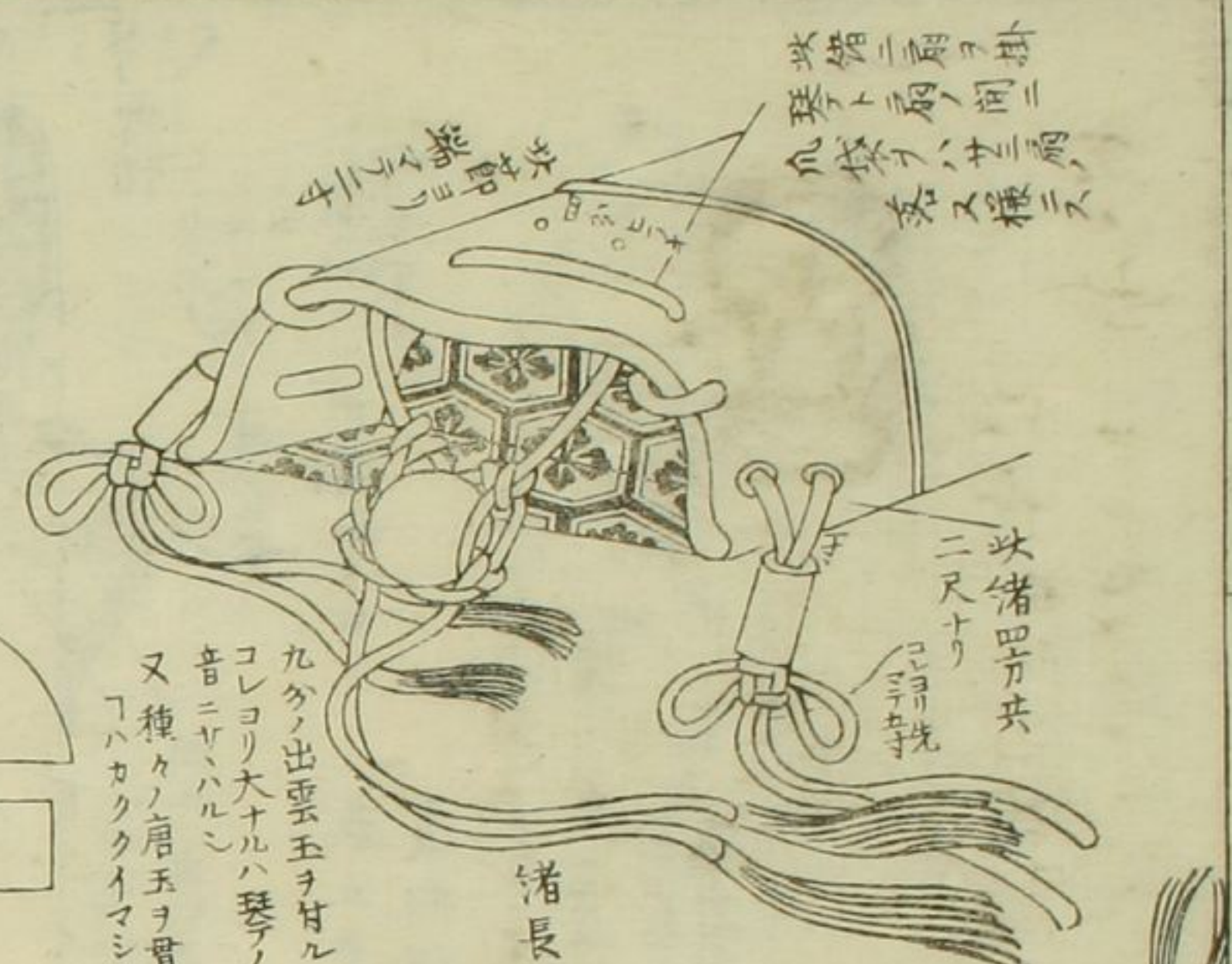


三日月ヲ月可形ト云
右ヲ高クニテテ徑ニ寸四分ニス
真中ノ巾六分ニホルヘシ

裏板惣名
龍腹ト云



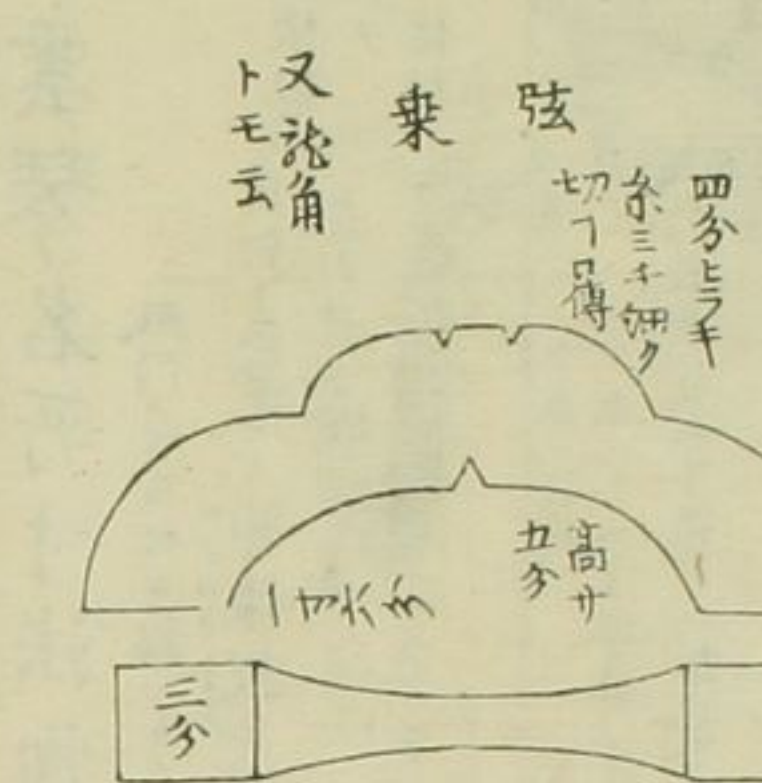
琴ノ中ヲ八百全ト云
十三道ノ渠ヲ十三月三
形取リハ汝路ト云



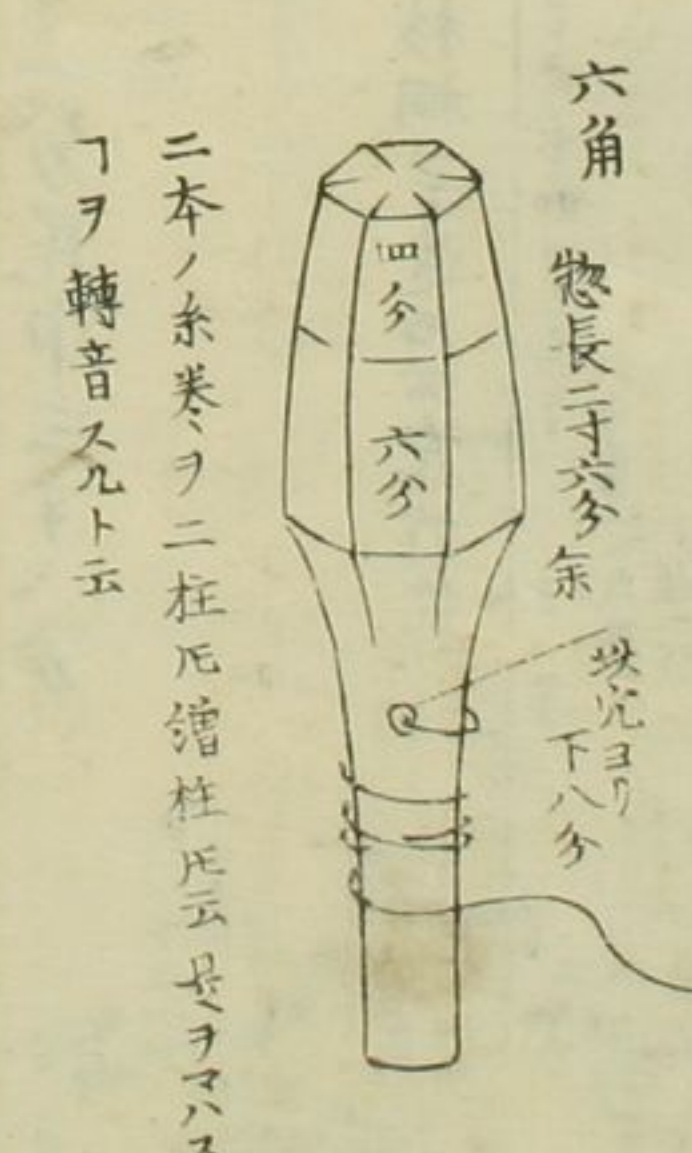
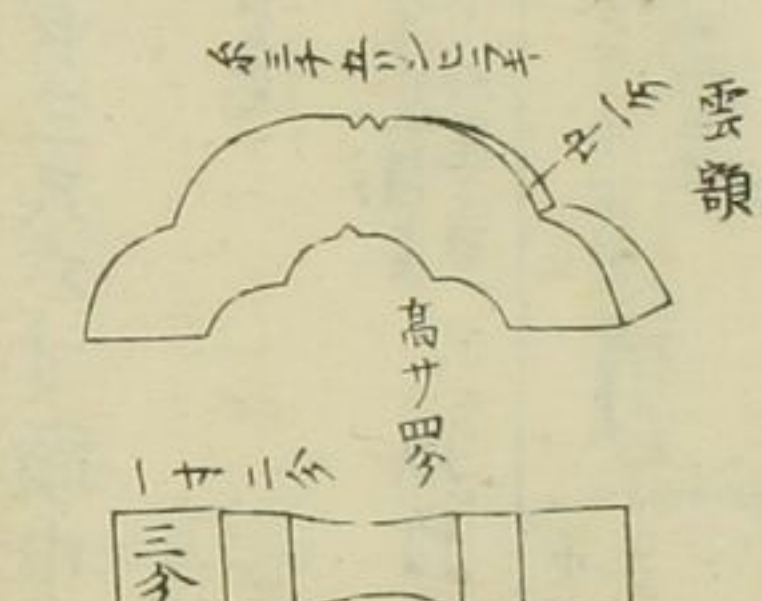
此箱三層ヲ掛
琴ノ下ノ間ニ
爪板ヲ六寸三層
敷ク又様ニ

此箱四方共
二尺ナリ
諸長三尺六寸

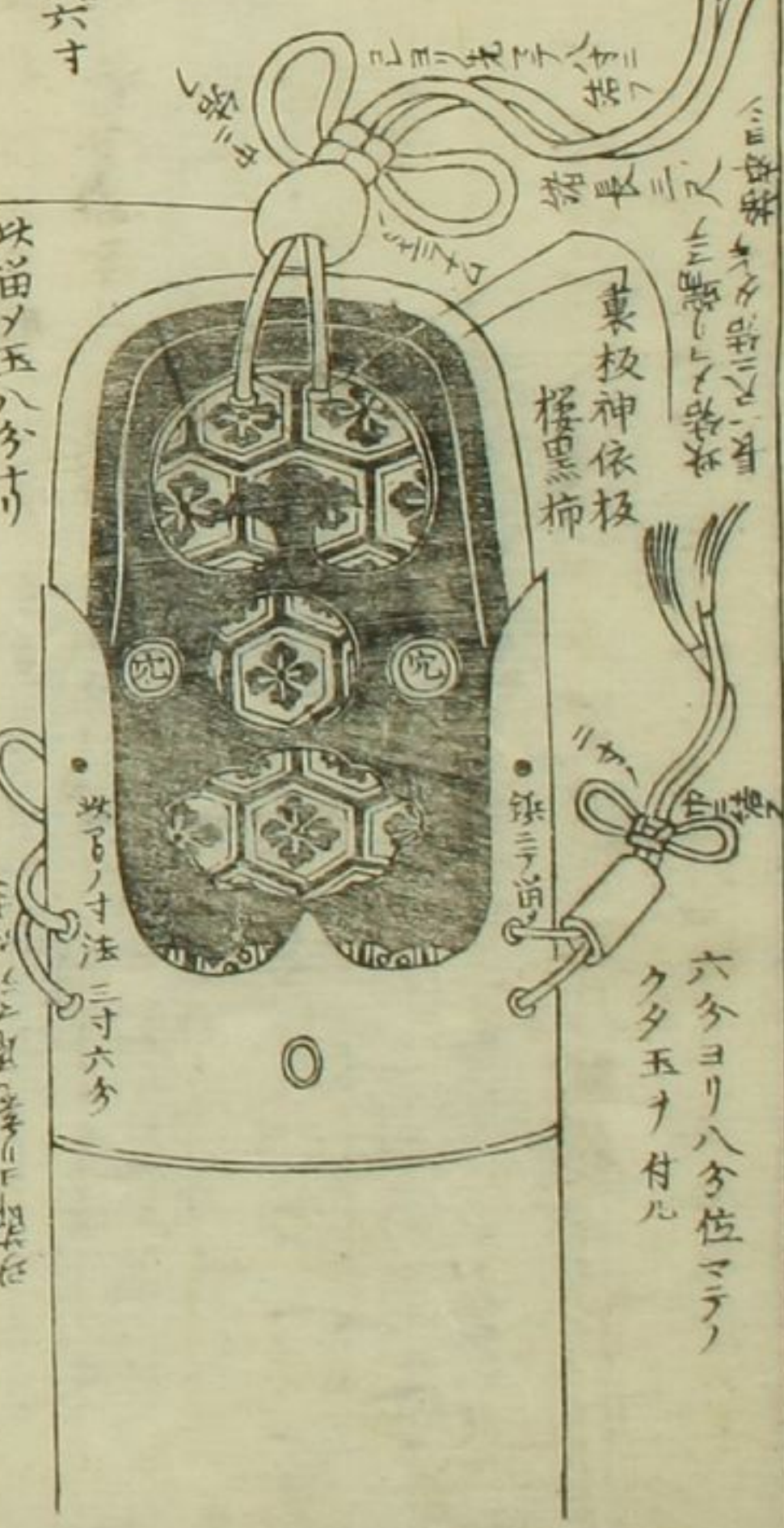
九分ノ出雲玉ヲ付ル
コレヨリ大ナルハ琴ノ
音ニヤハル
又種々ノ唐玉ヲ貫
テハカククイマシム



又此角
トモ云



六角 惣長二寸五分
此穴ヲ如玳瑁ニテ丸
東板厚一分六七厘
弦壺
糸ウス際
向ヘカク
深キナ手
前ヘカク



裏板神依板
檜黒布

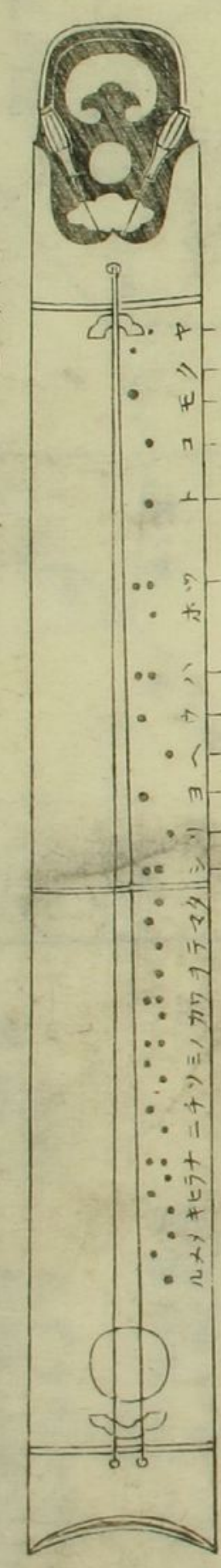
六分ヨリ八分位マテ
タタ玉ヲ付ル

圖ノ三

琴壺名

壺ハ中節際ノ上下をシタマヒテ竹木ノ琴ノ
定たるを此外ハ琴ノ下ノ間ニ爪板ヲ六寸三層
敷ク又様ニ種々ノ唐玉ヲ貫テハカククイマシム
此所ハ何レハ難ク然ガ凡壺ノ名を志セバヤク
圖ハあつては

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十



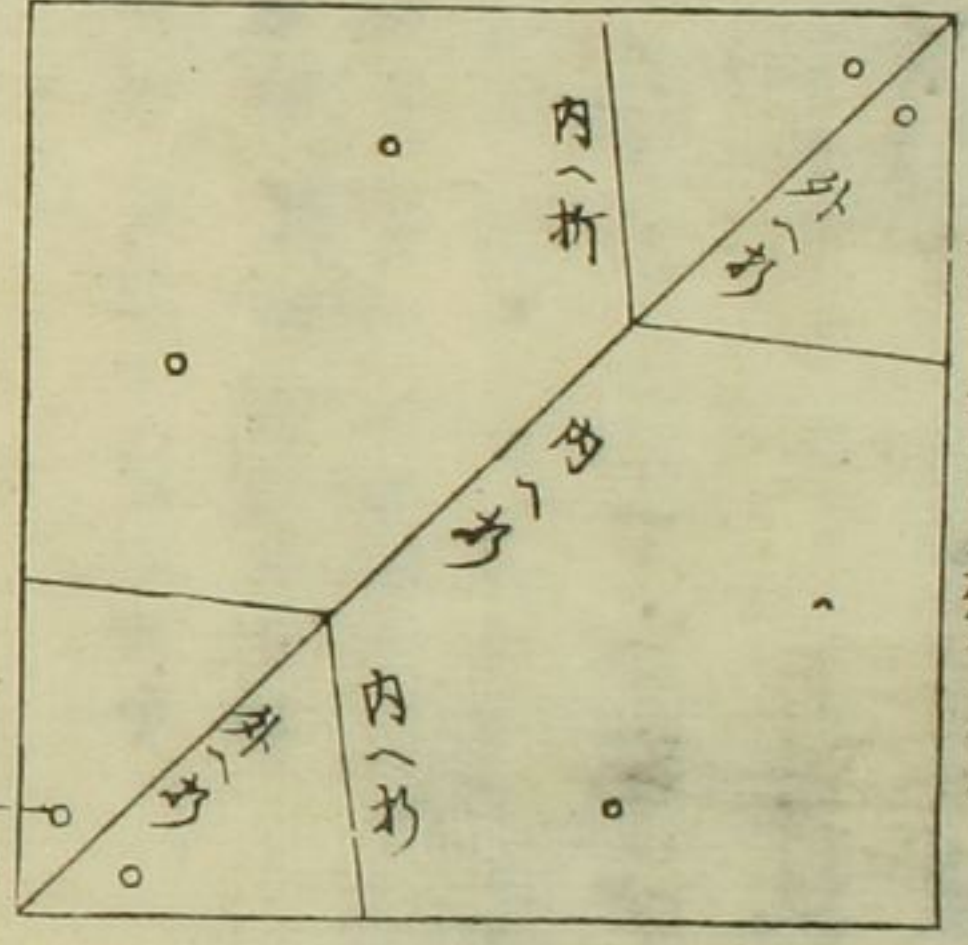
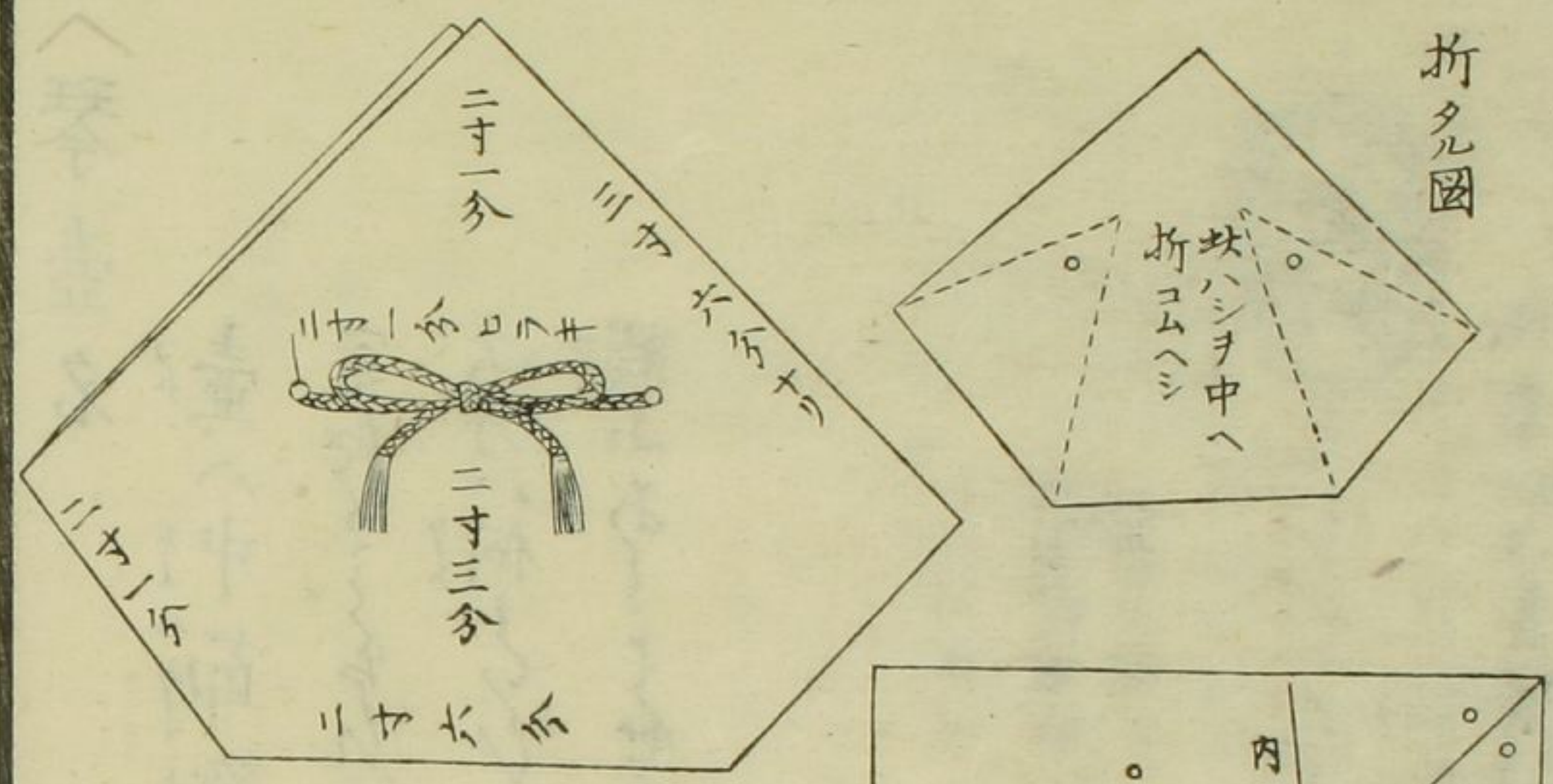
頭ノ下と云
尾ノ上と云

壺ノ歌
弦乗下ノ雲額柱上ノ少ノ動ノ様ノ下ノ
ヤクモコトツホハウヘヨリシタマテヲワカノミソチニナラヒキメヌル

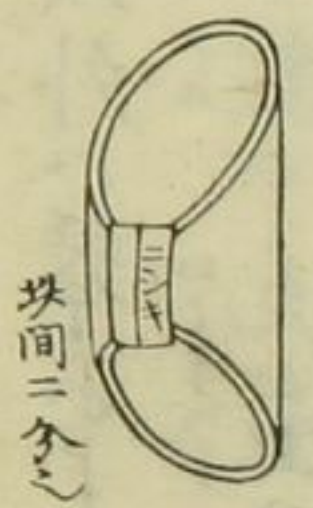
爪袋 表大和錦之類

折形指図

六寸四方ノ裂ヲ用

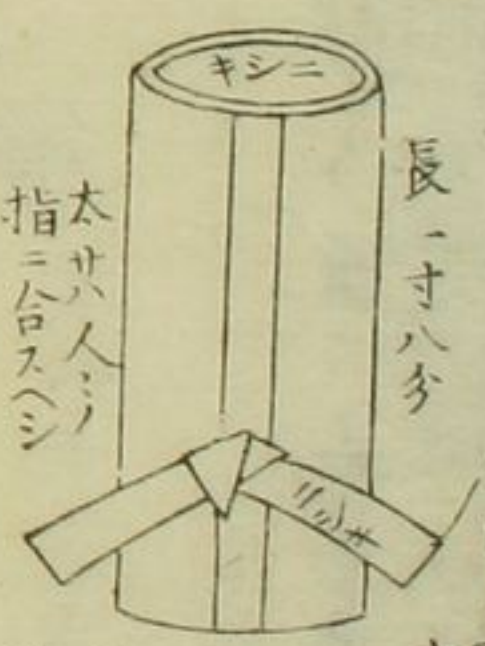


龍爪 鹿角



表一寸二分

右の人指小表を向や〜〜〜
爪臺の所を前後へ掻くや〜

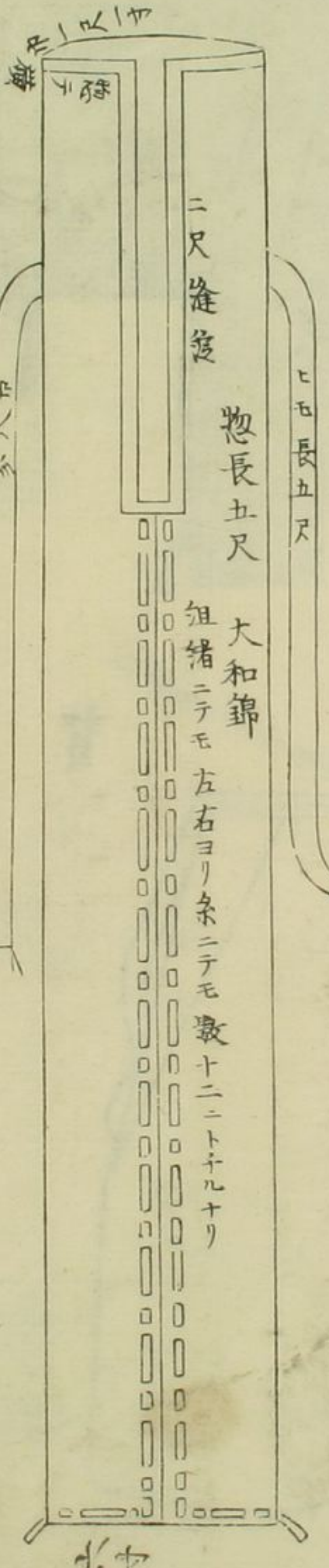


左の中指小表〜是や〜
二絃を押へ上下へ轉吟は

錦容飾ノ三アラス
内ノ方ヨク指ノトマリトナルナリ

轉管 白竹 轉管ハ元來須賀川ノ千鳥小象也

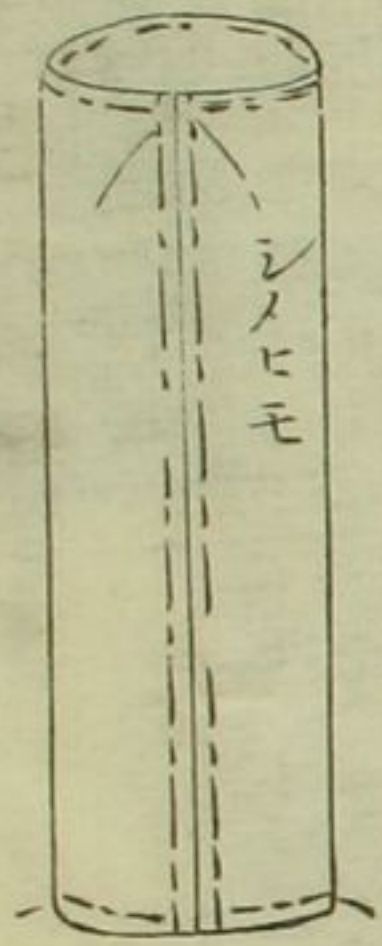
琴袋



大和錦 其外好ニ任ストイヘ
異国ノ絹布ヲ用ヒス

笏拍子袋

但笏拍子八寸



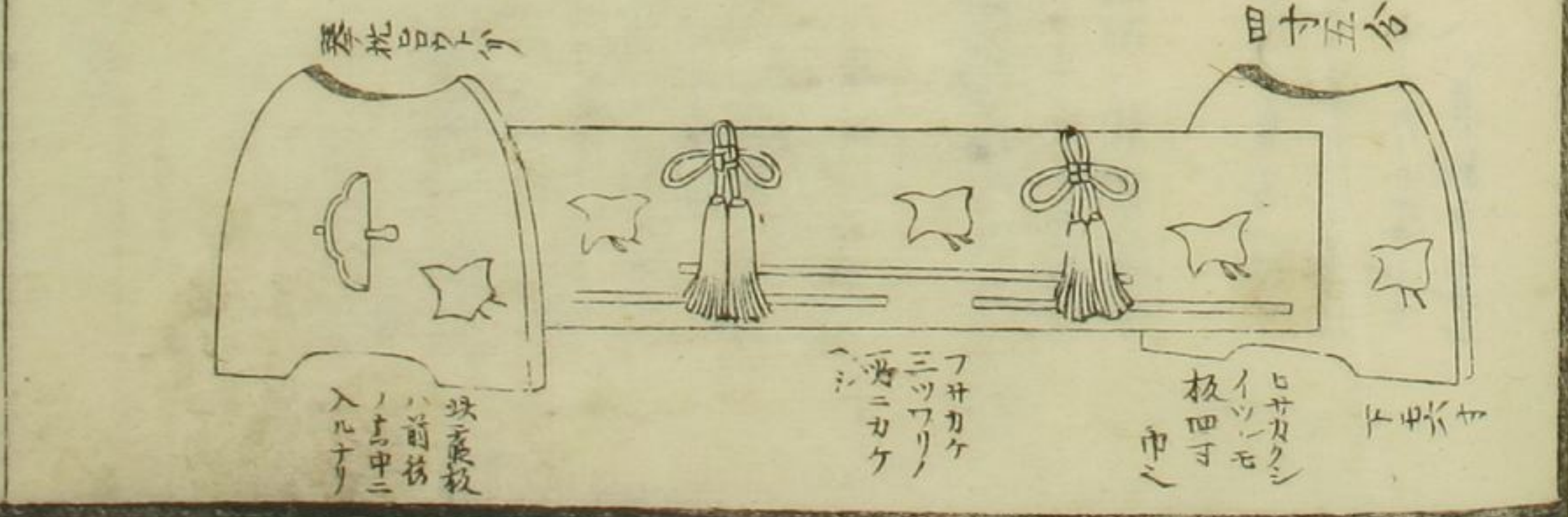
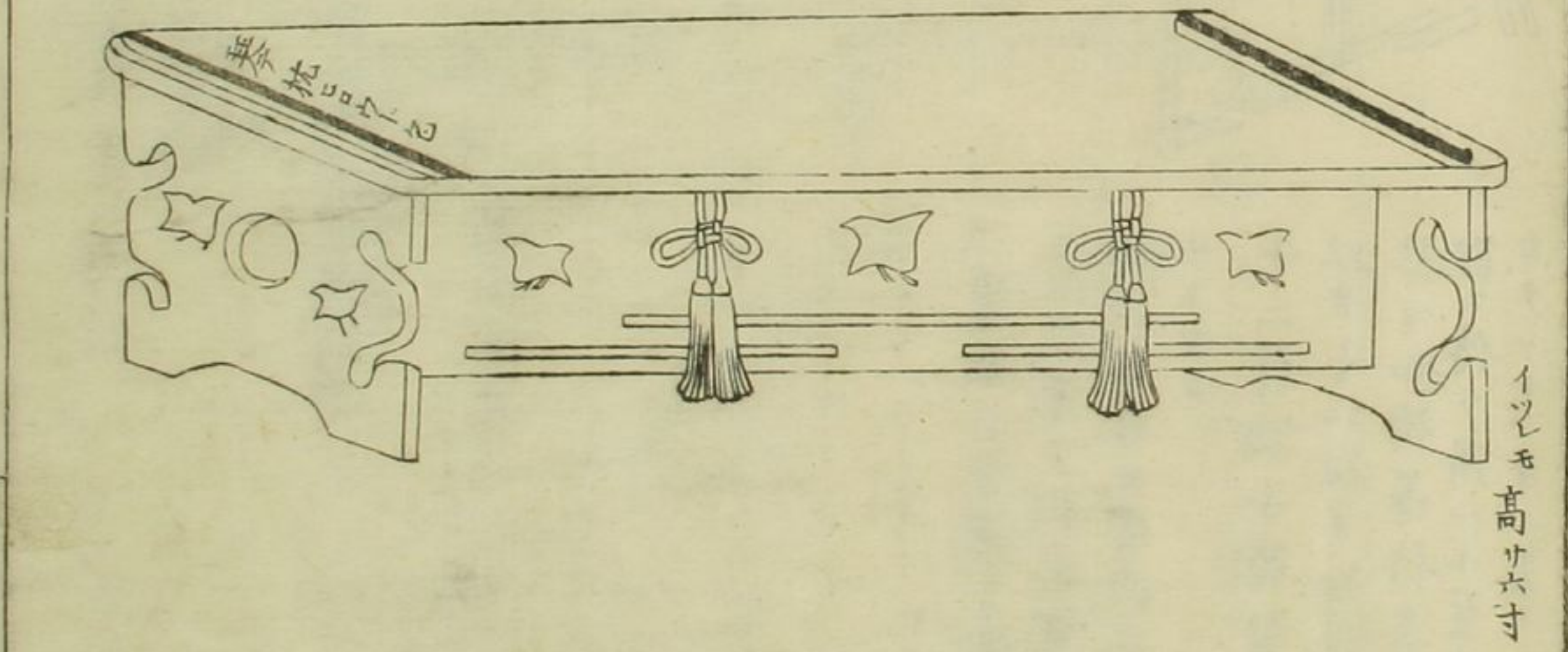
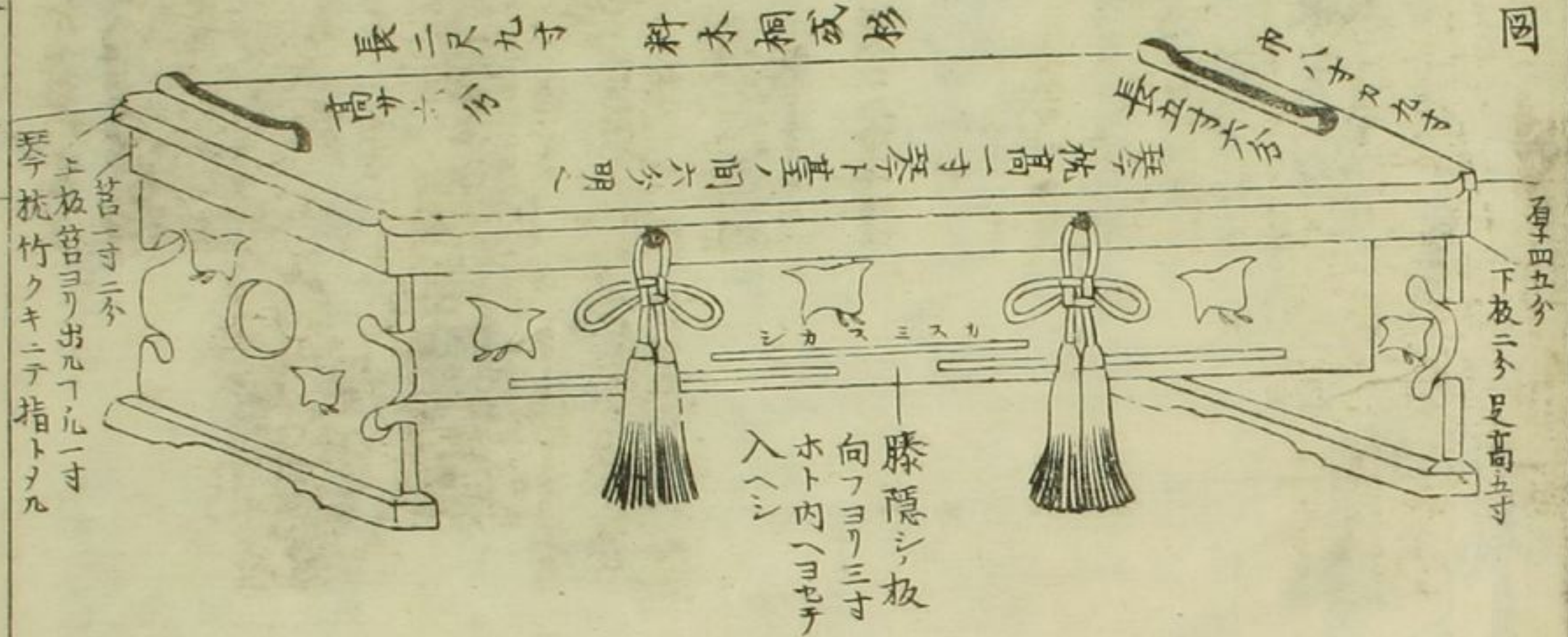
調子笛袋



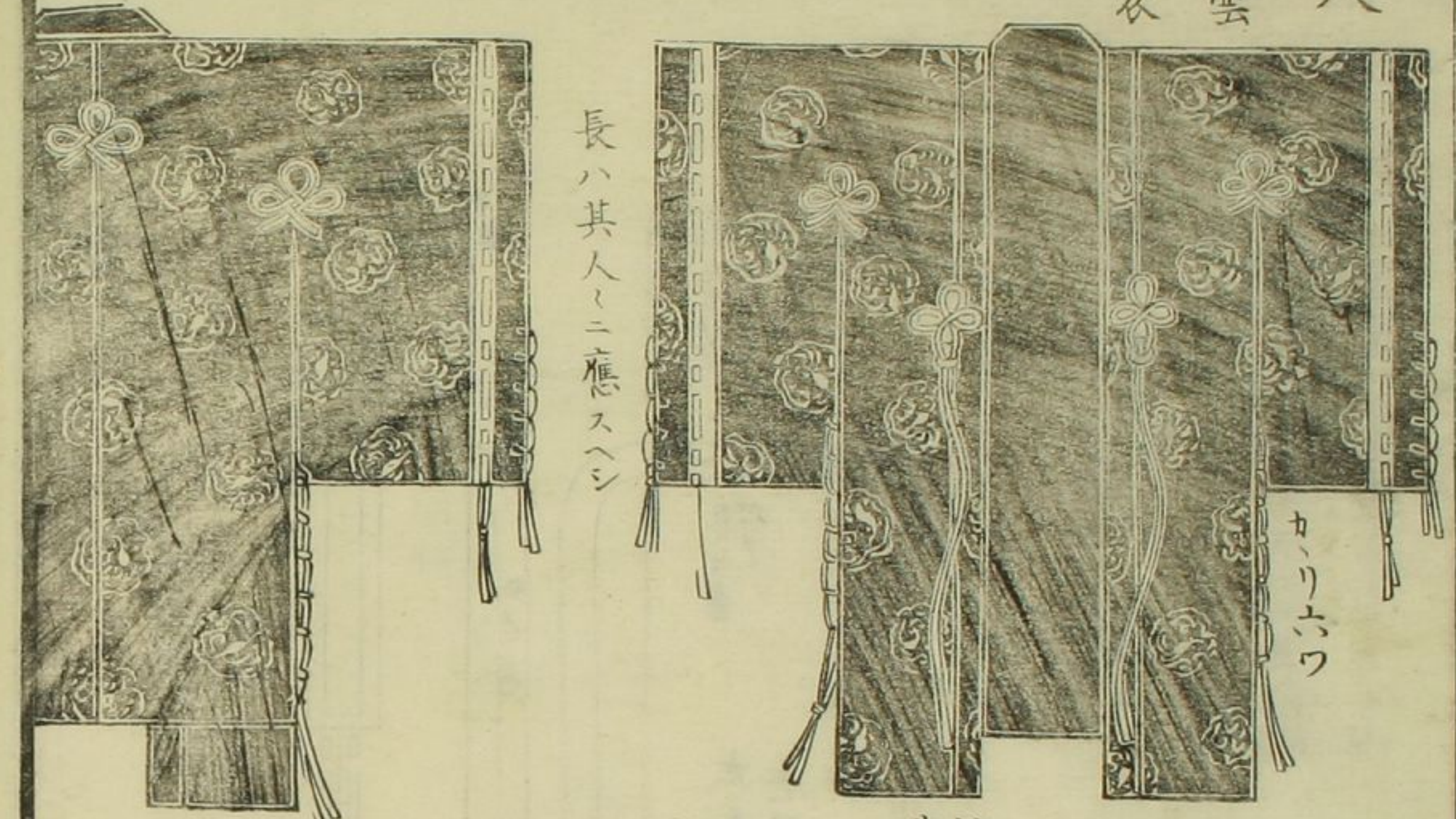
糸袋



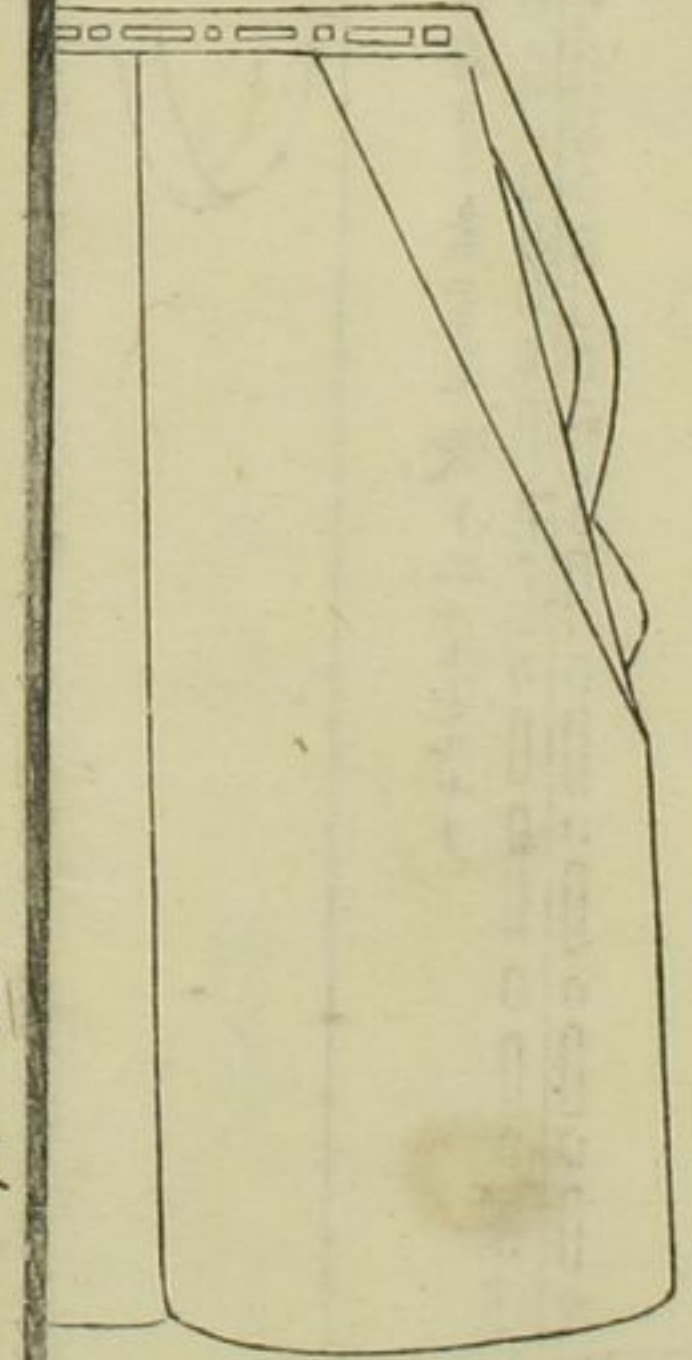
琴其王之圖



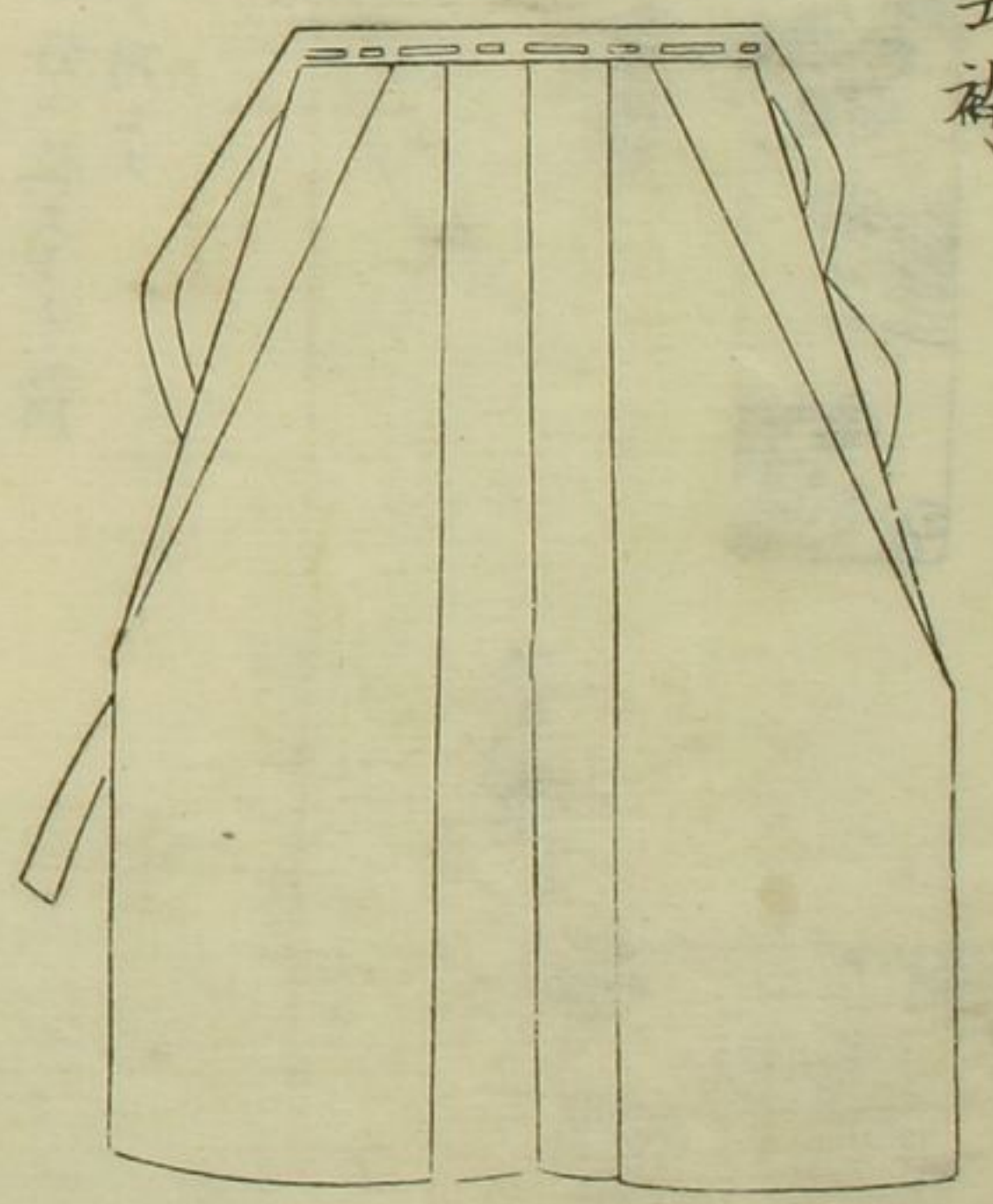
八雲衣



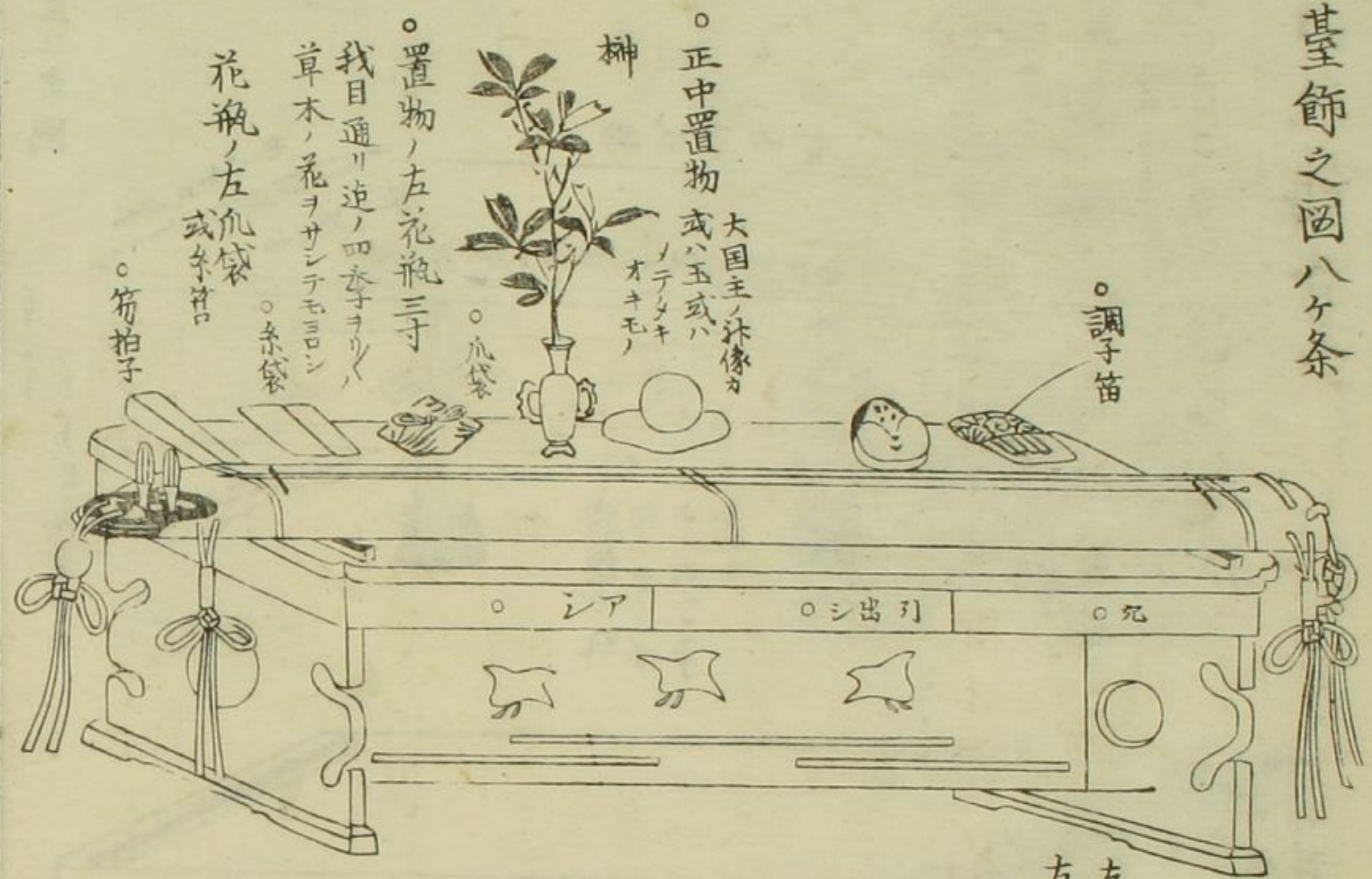
背



八雲袴

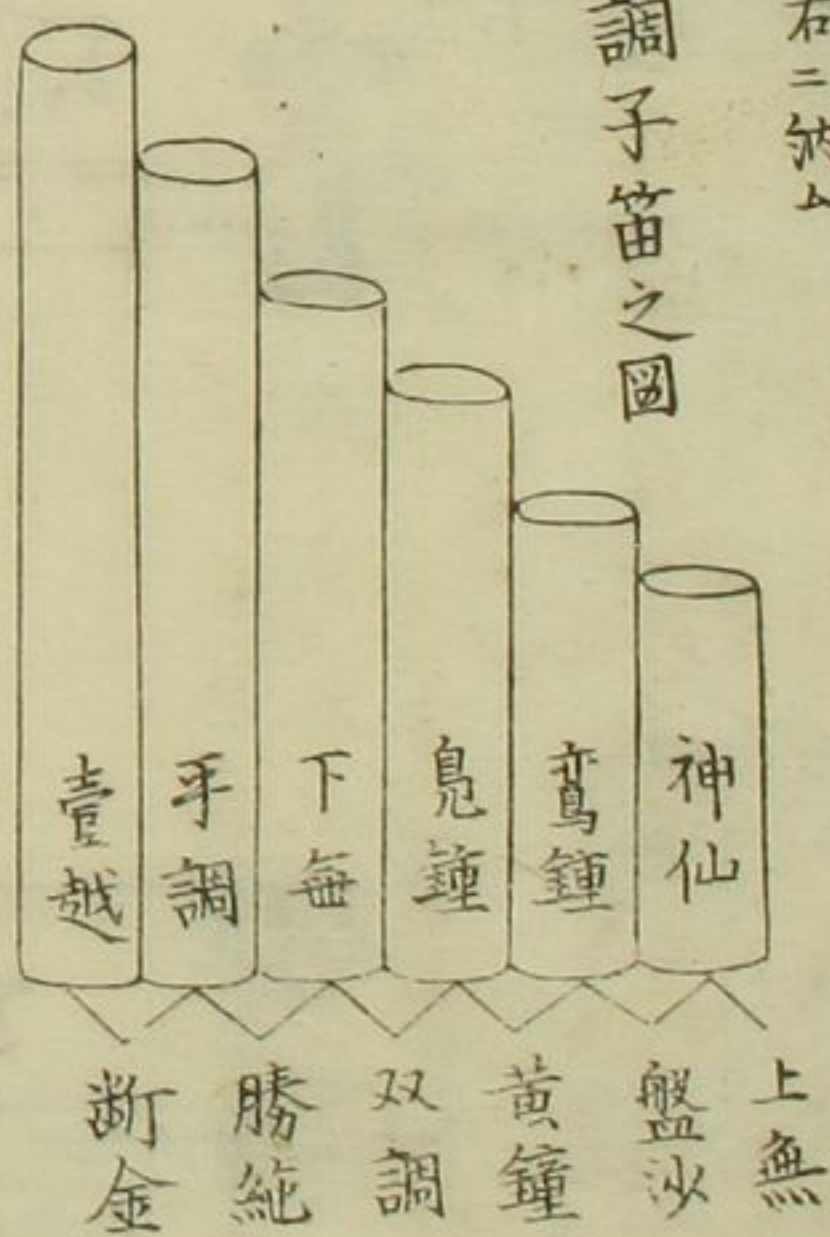


琴臺飾之圖八ヶ条



左右ノ足ヲ引出シ
左右ニ納ム

調子笛之圖



八雲曲ニ平調下無或双調ヲヨシトス
音定樂ヲ越殿樂ニ合双ニ平調ニ
神代舟哥又管撥高山ハ黄鐘盤沙
ナトヨシ
十二律調子笛製作ノ度并一笛ヲ
以テ十二律ヲ知傳又笛ナクシテ十二
律ヲ知傳等傳書中ノ卷ニ委シク
記ス傳ヲ得サル輩ハ其秘ヲモラシ
カタケレハ爰ニ畧ス

十二箇條

- 一 琴ノ形容をいほく。再注作をなうけし事
- 一 琴を臺にたたく。たみの上小置をなうけし事
- 一 琴糸ハ蒼天色の濃々。淡々ハ限るなき事
- 一 調子ハ惣々。平調雙調をいほく。或ハ黄鐘盤沙より高く
- 一 あげく。志々。なうけし事
- 一 自ら此調子ハ何位ヤ。いほく。常小。調子笛を以て志々。いほく
- 一 爪基小龍爪を當或ハ管を押へ。琴ノ甲小當。托々。いほく
- 一 手物を弾時早過。其間片寄。拍子ノ崩き。様小。弾き。いほく
- 一 席上歌謡のうら。外見をなうけし。并小。咳嗽。息を高く。
- 一 他ノ爪轉管弦以て。いほく。弾き。いほく

一本曲トシテ他の俗曲をゆめく弾むをいふ事
 遊里酒宴の席又ハ倡優卑業の輩又ハ不浄の所小むい
 炎く翫ふをいふ神の咎め給ひしことちまをたれハ慎むべ
 一 琴具もぐへりの色定法あり白ハ印可紫ハ眞許かぐへり用之
 かぐへり中許ハ紫ハ外色ハの打交とてかぐへり初傳々其外
 種々の色糸法用ふるをき事

廿四箇條

彈音六箇條

一 放一ツ彈を天ヤソビ又冷ヤも社ヤもいふ
 一 琴の中節トシテ上を押るゝ彈ハ通ヤソビ又都ヤソビ中節
 トシテ下ふゝ押へゝ彈を地ヤソビ又鎮ヤもいふ
 一 放一ツ彈直小押へゝ二ツ續々ゝ彈時をいふ一のツを社ヤ云
 中の一ツを地ヤソビ末の一ツを鎮ヤ云則社地鎮也
 一 二絃を別々分るゝ彈を割爪ヤソビ是をいふも重ねゝ彈ハ
 中節トシテ上ふゝ都知々々ヤソビ中節トシテ下ふゝ地天々々云
 一 手前の糸を二ツ彈向ひの糸を二ツ續けゝ彈を重爪ヤソビ
 都知鎮ヤソビ幾つも續けゝ彈を都知鎮くゝヤソビ

鎮ヤ云則社地鎮也

一 放一ツ彈直小押へゝ二ツ續々ゝ彈時をいふ一のツを社ヤ云
 中の一ツを地ヤソビ末の一ツを鎮ヤ云則社地鎮也
 一 二絃を別々分るゝ彈を割爪ヤソビ是をいふも重ねゝ彈ハ
 中節トシテ上ふゝ都知々々ヤソビ中節トシテ下ふゝ地天々々云
 一 手前の糸を二ツ彈向ひの糸を二ツ續けゝ彈を重爪ヤソビ
 都知鎮ヤソビ幾つも續けゝ彈を都知鎮くゝヤソビ

七六箇條

一 放一ツ七ふ成練蘭禮をいふ云也放一ツ彈七ふを天練又照芸云
 一 中節トシテ上ふゝ七ふを留ヤソビ中節トシテ下ふゝ七ふを林律ヤ云
 一 中節トシテ上ふゝ一ツ彈七ふを都留ヤ云是をいふも重ねゝ彈ハ
 都留くゝヤソビかぐへり如く下ふゝ彈時ハ地律くゝヤソビ

はるるは是をまへ瓜やいふ

- 一 ^{スクロ}七く直ふ彈を律鎮やいふ。二ツ續けく七ふを律林やいふ
- 一 ^{シタ}下より上へ地利鎮や上るを轉林やいふ
- 一 ^{クワン}管の先や向へけはる成左連やいふ

摺色六箇條

- 一 ^{ヒキ}一ツ彈ちがう下へ摺下るを摺やいふ
- 一 ^{ヒキ}一ツ彈く以後下へ下る成以摺やいふ
- 一 ^{ヒキ}一ツ彈より和らふ法やを付く。下へ摺下るを艶摺やいふ
- 一 ^{ヒキ}一ツ彈く上へ摺上るを摺擧やいふ
- 一 ^{ヒキ}一ツ彈く摺く元の所へ摺もやるを摺還やいふ
- 一 ^{ヒキ}一ツ彈より直ふ長く上へ下へや。いづれも摺るを摺込やいふ

左打色六箇條

- 一 ^{ヒタリ}左の手や。只糸成打をいふを空打やいふ
- 一 ^{イト}左の手や。糸を押へちがう。下へ摺下るを成色やいふ
- 一 ^{ウツ}左ふく一ツ打より早く下へ摺下るを成色やいふ
- 一 ^{ゴト}右の如く打く和らふ法や成付く下へ下るを句やいふ
- 一 ^{オサ}左ふく押へたる所より上へあがる。又元の所へもどるを躍やいふ
- 一 ^{オトナ}音無しふ七ふ真似を成り成り窺ひやいふ

彈吟中の大事八箇條

- 一 ^{クンシン}君臣親子兄弟杯連曲の時々いふゆる也。自身壹人誓古ふ
- 一 ^{コト}彈はゆるゆるいふ。琴小兩手をつき敬禮をなす。調へ始むべし
- 一 ^{タビ}但一彈琴の左方を上席や知るなり
- 一 ^{シンキョク}神曲奉納の節いづゆる。以水より其席を清め調を懸るなり
- 一 ^{コト}琴臺ふ向ふ時臺の右足の方へ付く。真向ふ座へていふなり

一 調子合せ様の夏先手前の糸を平調或は雙調位自ら
よ〜や思ふ程ふ細き爪音や〜合せ其後向ふの糸音を手前の
糸小撥合せを〜

一 琴の敷三張五張八張も一同小連曲弾吟まゝ時ハ先其内の高
弟上席の琴小懸置其日志〜んや思ふ曲の調子を何や定め
其琴の手前の糸音小其次々々の琴の手前の糸を〜
順々小合せ皆〜合せ後向の糸ハ各手前の糸音や〜
撥合せ〜合たる時一座皆心を志づめ爪音静小一同撥合せ高
弟是を聞定む〜揃〜後琴の音を皆々暫く留め
一同白湯をた〜心を静め夫より高弟を初〜一同礼を
〜高弟上席の琴や拍子を一ツ取細聲や〜夫や〜一
聲ふつれ〜調へ出〜其歌の前の一句ハ高弟を出せ二句

めよ〜一同小續附〜是は絃曲の定式也

一 席上の大事心得の夏何よ〜も彈吟の節ハ休息の席と取
る〜其席や〜弟一ふ琴糸をの〜懸替調子を高く上〜
よ〜糸絃の〜盤歩位高〜上座中の琴を皆同音小合せ
置夫より鋸り付並ふ琴の道具其席の事をの〜片つけ
方の夏濟〜後又其日志〜んや思ふ雙調子の〜調子を
下げ〜合せ定め置彈ぶ〜席へ上席より順々小出させ配置
〜夫より各口淡〜手をあ〜心を清〜神明と拜〜
又銘々本の座や〜也夫より高弟調子を吟味〜よ〜
揃ふ時其日の歌番組役の人小申付其彈曲の人々を琴の席へ
呼出さ〜若簾中〜貴人の聽聞ま〜時ハその席へ
入らんや〜所や座〜手付目禮を〜夫より琴の

席ヒキ付ツク也ナリ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと
ち。高カウ弟テイ小シタ隨ワひ調シラへ出イ出イる。後ノチ同ドウ礼レイと

一 拍ヒヤウ子シハ。ハ。ソレ。ニソレ。ヨヨイ。ハヨヨイ。也コエ聲コエをわオホけホ覺サ也ナリ是コト定サ式ノ也ナリ

一 歌ウタの間アイダ右ミダ手ミキの拍ヒヤウ子シ取トリハ一イツツ。ニニツツ。三ニツツ。四ヨツツ。五イツツ。也ナリ

右ミダニケ条ジョウを替カ替カ古コの時トキ。心中ココロ小コ習ナラひ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと

右ミダニケ条ジョウを替カ替カ古コの時トキ。心中ココロ小コ習ナラひ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと

右ミダニケ条ジョウを替カ替カ古コの時トキ。心中ココロ小コ習ナラひ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと

右ミダニケ条ジョウを替カ替カ古コの時トキ。心中ココロ小コ習ナラひ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと

右ミダニケ条ジョウを替カ替カ古コの時トキ。心中ココロ小コ習ナラひ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと

右ミダニケ条ジョウを替カ替カ古コの時トキ。心中ココロ小コ習ナラひ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと

右ミダニケ条ジョウを替カ替カ古コの時トキ。心中ココロ小コ習ナラひ。後ノチ各オノオノ細ホソく調テウ子シを窺ウカひ。揃ソロへ。後ノチ同ドウ礼レイと

神傳八雲琴譜目錄

葦芽組

瓊ヌ牙ホコ振フリ 破オ馭ノ廬コロ振フリ 神カム保ホ左サ岐キ振フリ

出雲組

八ヤ雲クモ振フリ 御ミ統ス曲マルフリ 片カタ洞フチ曲フリ

頂ウナ懸カケ曲フリ 盞ウキ結ユヒ曲フリ 岩イハ笛フエ曲フリ

内日組

奥オキ津ツ曲フリ 神カム風カセ曲フリ 幾イク久ヒサ曲フリ

酒サカ壽ホキ曲フリ 輕カラ野ヌ曲フリ 琴コト頭カミ曲フリ

伊イ組クミ曲フリ 芳ヨシ野ヌ曲フリ

萬葉組

吾大君 アカオホキニ 振放曲 フリサケフリ

神南備 カムナヒ 秋風曲 アキカゼフリ

神依板 カミヨリイタ 籬廼竹 マカキノタケ

八代組

春廼調 ハルノシラヘ 花廼君 ハナノキミ

月御舟 ツキノミフネ 雁金曲 カリガネフリ

茅筵曲 カヤムシロフリ 民廼榮 タミノサカエ

壽詞組

松風曲 マツカゼフリ 相生曲 アヒオヒフリ

初音曲 ハツネフリ

荒乳曲 アラチフリ

人傳曲 ヒトヅテフリ

初霜曲 ハツシモフリ

管搔曲 スガカキフリ 以上三十六曲

葦芽組

天地初發之時於高天原成神名天 アメツチハシメメノトキタカマノハラニナリマセルカミノミナハ

之御中主神次高御產巢日神次神 ノミナカヌシノカミツクニタカミハミナヒトリカミナリ

產巢日神此三柱神者並獨神成坐 ムススヒノカミコノミハシラノカミハミナヒトリカミナリ

而隱身也次國雅如浮脂而久羅下 テミカクシタマヒキツクニクニウカクウキアブラノゴトクシテクク

那洲多陀用幣瓠之時如葦牙因萌 ナスダダヨヘルルトキアシカヒノコトモエ

騰之物而成神名宇麻志阿斯訶備 トモノヨリテナリマセルカミノミナハウマシアシカヒ

比古遲神次天之常立神此二柱神 ヒココチノカミツクニアソノトコタチノカミコノフタハシラノカミ

亦獨神成坐而隱身也 モヒトリカミナリマシテミカクシタマヒキ

神傳

琴主調

上件五柱神者。別天神。

次成神名。國之常立神。次豐雲野神。
 此二柱神亦獨神。成坐而隱身也。次
 成神名。宇比地。通神。次妹須比智。通
 神。次角杵神。次妹活杵神。次意富斗
 能地神。次妹大斗乃辨神。次淤母陀
 琉神。次妹阿夜訶志古泥神。次伊邪
 那岐神。次妹伊邪那美神。
 上件自國之常立神以下。伊邪那
 美神以前。并稱神世七代。

阿那通夜志。愛表登賣表。阿那通夜志。
 愛表登古表。阿波禮甚切樂之。甚切何怜。甚切清亮。
 阿波禮甚切樂之。甚切何怜。甚切清亮。
 飲憇

此三曲ハカシノ神事故不其人小あはれ傳へざるの
 神曲也。是を志るんや思ふ時ハ先七日をくり清き所小
 於く物忌し。こゝろ齊まらるる清き。後神の廣前小調
 ぶんき。みだるふ。時ハ神の外め給らん夏。い
 ぬ。慎むる。秋ハ時をへらるる。

出雲組

八雲曲

同神秘

須佐男命 八雲立出雲八重垣妻古事八重垣はくはくその八重垣哉

御統曲

同

下照姫命 あめちかや。たをたをそののうれせ。玉のみほまる御統お
穴玉こや。またよふらわらぬあめちかや。ひとね。

片淵曲

同

河片淵かたふらふ。網張りたる。あめちかや。よふらぬ。河たふらふ。

頂懸曲

同三秘

八千矛神 ぬを玉の黒き御衣を。まらふきふ。やうは装ひ奥つるむれ見の時
鱈揚も。此らふけを。るらふ。磯小脱。鶴鳥の青きみり
哉。まらふけ。取らふ。たきら。むら。時を。き。あ。

上ノ七

ゆきつね。るらふ。山縣小来。苗春添木汁

小染衣。まらふけ。やうは。むら。時を。き。

あー。直。い。や。この。妹の命。群鳥。吾むれ。往。び。を。の。

吾ひけ。い。泣。い。汝。山。一本。薄。う。あ。う。ふ。

汝が。あ。は。ま。朝雨の。さ。霧。ふ。た。む。若草の妻。死。命。

結曲

同三秘

八千矛の神の命や。吾大國主。この。男。小。坐。せ。打。見。る。鳴。の
崎。々。搔。見。る。磯。の。け。き。落。ち。若。草。の。妻。持。せ。め。昔。も。よ。女。

み。あ。い。汝。置。く。夫。は。あ。い。は。ま。い。文。垣。哉。

ふ。は。や。下。小。蒸。衾。小。あ。や。下。小。栲。衾。は。や。か。下。に。沫。雪。の。弱。

や。る。胸。哉。栲。綱。の。白。き。腋。を。た。き。叩。き。ま。れ。る。真。玉。手。玉。手。

差。纏。も。長。小。寐。を。う。あ。せ。豊。御。酒。奉。ら。せ。

岩^{イハ}笛^{フエ}曲^{フリ}

手夏^{テナ}八^ヤだん

内^{ウチ}日^ヒ組^{クミ}

奥^{オキ}津^ツ曲^{フリ}

同

彦火^{ヒコヒ}出見^{デミ}尊^{ミコ}

豊^{トヨ}玉^{タマ}姬^メ

赤^{アカ}玉^{タマ}

奥^{オキ}津^ツ鳥^{トリ}

神^{カミ}武^ム天^{テン}皇^{ミコ}

神^{カミ}風^{カゼ}曲^{フリ}

同 神秘

もやほら。うちて。やまむ。

幾^{イツ}久^ク曲^{フリ}

同

崇^{タカ}神^{カミ}天^{テン}皇^{ミコ}

此^{コノ}みき

酒^{サカ}壽^{ホキ}曲^{フリ}

同

上ノハ

神^{カミ}功^{コウ}皇^{ミコ}后^{ミコ}

此^{コノ}酒^{サケ}ハ

御^ミ神^{カミ}の

輕^{カル}野^ノ曲^{フリ}

同 秘曲

應^{オウ}神^{カミ}天^{テン}皇^{ミコ}

枯^{カラ}野^ノを

琴^{コト}頭^サ曲^{フリ}

同

武^ブ列^リ天^{テン}皇^{ミコ}

伊^イ組^{クミ}曲^{フリ}

同 三秘

春^{ハル}日^{ニチ}皇^{ミコ}女^メ

あも

たも

出くちがけ

芳野曲

同

天武天皇

洲人の良こよみ。好や言。芳野よこも。よきひと。回来三

此二組ハ神歌。其身清からゆ。時ハ。若くは。若くは。

撰小もの。時ハ。大神のや。あ給もん。が。やむ。やむ。

得。志。若くは。時ハ。あ。弾損。若くは。若くは。

萬葉組

柿本人麻呂

吾大君

△うつ。社。若くは。物。若くは。

八隅。我大君。高亮。我日の御子の馬。御狩。若くは。

若くは。若くは。路。若くは。若くは。若くは。

若くは。若くは。若くは。若くは。若くは。

若くは。若くは。若くは。若くは。若くは。

振放曲

山辺赤人

天地のわ。時。神。高。貴。駿河。富士。高根。

若くは。若くは。若くは。若くは。若くは。

若くは。若くは。若くは。若くは。若くは。

若くは。若くは。若くは。若くは。若くは。

反歌

田子の浦。出。若くは。若くは。若くは。

大伴家持

初音曲

四季乃曲

若くは。若くは。若くは。若くは。若くは。

神南備曲

同

志貴白皇子

若くは。若くは。若くは。若くは。若くは。

秋風曲

秘曲

筑前守山上意良 秋風の吹あけ日よるをいほしきも。我まもこひ。君ぞきませむ

読人不知 首乳曲

矢田の野小あはれぢいらはく。ちもぬの沫音。寒くも

仲哀天皇 神依板

神ちひのうみま板小。も杉の。おもひ。過た。あひの志ひきよ

後三条内府 籬迺竹

うゑてみる。まきの竹の。ゆ。毎小。もねの。子代ハ君ぞおごん

八代組

春之調 古今

袖ひも。むらび。水ぬ。ふれも。春立々。た。ゆや。も

坂上是則 花迺君 後撰

櫻花。もふよく。みせん。異竹の。一夜の。ほが。も。も。あ。も

上ノサ

人傳曲 拾遺

壬生忠見 けよ。けて。寐覚。さ。せ。時鳥。人。は。て。小。社。き。く。る。ま。た。れ

小野良材 月御舟 後拾遺

秋の夜は。月の上。も。舟。か。は。の。枝。小。掉。や。さ。は。ん

九河内躬恒 雁金曲 金葉

年。毎。小。路。を。ぬ。鷹。ぬ。の。も。は。く。や。あ。き。い。ん

大中臣能宣 初霜曲 詞花

初霜も。おき。ふ。け。れ。を。は。れ。野。の。浅。芽。も。色。付。お。け。り

萱庭曲 千載

あ。は。て。ほ。ら。吾。妻。あ。女。の。か。や。む。ら。志。き。は。る。も。過。た。は。れ

民迺榮 新古今

高きやねの。ぼ。ら。て。み。れ。煙。は。民。の。も。も。も。も。賑。ひ。け。り

壽詞組

松風曲

齊宮女御 琴の音。おのの松が。かよふ。いづれの緒。よ。き。い。そ。め。えん

相生曲

大貳三佐 あひおひの。小塩の。山。此。小松原。今。よ。る。と。子。世。の。か。げ。を。ま。ま。こ。あ。ん

管搔曲

妣副美豫伊鷓娜椰古鄧毛智呂

以上六組合三十六曲 八雲琴譜上卷終

神傳八雲琴譜二之卷目錄

由來組

出雲詣

琴由來

松の嶺

三穗関

神有月

出雲新膏

功德組

歌垣曲

大社曲

朝雨曲

御名讀

子の功

須賀川

五節組

天津少女

浦分衣

木の花

吳竹曲

竹の都

安國曲

堅石組

伊勢詣 イセマツテ 神の都 カミミヤコ

百枝松 ヒヤクエダマツ 五十鈴川 イツスズガハ

常磐組

御世榮 ミヨノサカエ 飛鳥山 アスカヤマ

宮城野 ミヤキ 千賀浦 チカノウラ

上代組

高倉山 タカクラヤマ 庭津鳥 ニハツトリ

岩戸開 イハトヒラキ 天御柱 アマノミハシラ

以上三十六曲

附録今様組

治る浪 チサマナミ

神路山 カミチヤマ

千秋榮 チアキノサカエ

東名殘 アツマノナコリ

宮の咩 ミヤノヤ

天浮橋 アノノウキハシ

由來組

出雲詣

八雲琴主

旅の衣のもろもろ行へも遠き雲霧の山また山茂かえ過く。 神有月も名ゆらお出雲の國小着にやう遠近の山路の松乃下葉まじく神風はくさ聲まじく實あまかたき神の代を思ひ出雲の宮柱太敷たぐく動きゆく榮久しきよも八方の紅深き梢よる時雨く渡る太山への里も冬立氣色めれ。

琴の由來

琴主

神はふれ八雲の琴を八つあはれ出雲の國は八重山の琴引出傳へたる。天の沼琴は古へ浅今も移り御柱の二つは糸成懸巻もあやみ尊き須佐之男の神は御うたを掻合せうたひ初し。文政の三やせ更行秋の空杵築小詣故由を大宮人小言問く。

榮久敷き君が世談言賀奉りかきぬ

松の齡

黒田琴臣

出雲山やは松の枝ハ春風の吹ははびても咲花の色香小増

子早振神の御志め此遠長に翫らんや玉くけ二絃の琴哉

鶴亀の齡ふよを引をたゆき

三穂の浦

横山真恒
田口亀子

搔ちぬ其音哉三穂の浦子鳥八雲小琴小聲合はるる

神有月

佐草美清
春子

久方の天津御神の御よの命はまはる大穴年持神の命

かみ事浅志るめつやまつとゆ鎮まらん八雲立出雲國

冬はと神有月や人皆もどを傳へ天の下百八十國の皇神

神の儘自と神集ははる来き神事の多なる中綿津見の

神の宮ゆも年のまふ御使さぬや拵築をり

みたかろをかくとるは身は顯き神の参来す其幽夏は

みわはは綾ふ奇くやもさるか

京永野貞厚

出雲の新嘗

朝彦の光りたぐさの出雲なる琴引山の松もみぢり立

子早振神の御志先の打をひく夕風涼く千五百杖瑞穂ゆは

新嘗の神もろくさく八雲立出雲の國造の君が御前の琴板ふ皇神

をよき日祭らん明日よるあけの衣浅け衣ゆせん今もさ

るく百度の榊葉や神哥は聲も神さび尊をさる

功德組

歌垣曲

井口震翁

はるまきぬるまが建新室小樂為時舞奏る其弟子詠め取佩

此れの手上タカミの丹畫ニカキツケ著ツケ太刀ツチ緒ヲ赤幡アカハタ立タ五十隱山イツカクシマの三尾ミの村竹ムラタケの本詞モトカ岐キ苜カ末押スエオシ靡ヒケ玲瓏サヤクハッ緒ヲの琴コト調トたる如ト。

大社曲

琴主

國中クニナカ此所ココいさし。もつこいさし。大八洲オホヤシマ大國オホクニ主ヌシの御由オシユライ来ライつ。小神代カミヨを尋タツヌらぬ葦アシ菅スゲ植ウエをカミ作ツクらる。萬國マンコク最サイ初シヨの御國ミクニをハ兄ケ弟ケ誰ナニがヲ尋タツヌらぬ。少御神スウミカミの二柱フタハシ高タカみむらひの御子ミコをリク戮リ力リキ心ココロナナククシシヒヒママニニモモヤヤムムルルニニナナキキヨヨ。七奇ナナクシヒ禁ヒトクサ厭ケ道モ清イタく。人ヒト草マテ毛ヤマ物マシ小コ至ホる。追病オホサマを治イサし功コトあり。諸國シヨコク小コ樂ラク師シの大祖ミオヤカミ神カミ山田ヤマタの曾保ソホとコトいふ。羅摩カハミの舟フネをカこカよカせカく。女濤メナミ男浪ヲナミをユめユめユ。弓手ユニテ小高ツカき大神ミワノ山女ノテ手クカチ陸地クカチ三穂ミホ閑波ノセキナシの穂ホをナらナぬ。見渡ミワタせミ昔ムカシ神人カミヒトのほめ給ヨコクふ。餘國ヨコク小稀マレをナらナぬ。八洲ヤシマクニ國ニ瓊ニ々ハ杵キノミヨト尊ナハモムスの御世ミヨ此時トキ宮ミヤハ三十二丈ハシラゆフく。柱ハシラ太フトく。や千尋チヒロたぐ繩ナハモムス百結ヒトヒトひ。高橋タカハシ浮橋ウキハシ相添アヒソへヤ八重垣ヤハ水垣カキ玉垣ミツカキ玉垣タマカキと建立コンリウをナらナぬ。時トキよヨもモゆユ。

杵築キソキの宮ミヤ所トコロはヨリ依ヨリ日ヒの大神オホカミ此勅ナヨクたる日隅ヒノスミの宮ミヤやハいハやハ。

是コレ大社オホヤシロの由来ユライをスクナニカカミ

えく帝世トキヨの國クニへツクたツクらツクるツク。

朝雨曲

中臣正蔭

八嶋國ヤシマクニ妻ツマまツマなツマぬツマ遠近ヲチコチのヲはヲ少女ヲトメ通カヨひカヨんカヨ神代カミヨゆカミヨ。

はぬトリ鳥トリさニハらニハぬニハ庭ニハつニハ鳥ニハかニハけてニハ思オモふオモぬオモ玉タマの黒クロさクロ御夜ミケヨい

身ミ小コさコけコ。漆木シロキがシロけシロの志シロめシロ衣イ心ココロ小コ叶カナふカナ新枕ニヒマクラちニヒやニヒけニヒ安ヤスきヤス沫雪アハニキの

白シロきシロ服カムキタマテ玉手タマテはタマテいタマテきタマテぬタマテぬタマテ姉フキゆフキひフキのフキ。

いヤマトたヤマトるヤマトいヤマトもヤマト倭ヤマトの一本スギ芒スギちスギをスギひスギきスギ露ツユもツユ霧キリもキリたキリんキリ朝雨アサメ

御名讀

中条信禮

千早振チハヤス神代カミヨの昔ムカシ大八洲オホヤシマ主領ウシホキまス素ス蓋サ鳥ノのヲ六ムツツ代ノのミ御子ミコはミコ

御功ミコトをコト言コト擧アゲまアゲるアゲ木綿コフタ袴スキあスやス小コかコけコまコくコ畏カシコくカシコもカシコ豊葦原トヨアシハラの荒アラ

なたへひらき。ひらき。羽衣を。むらびへたる面白き五度等
袖の香は白ひも盡け橋の昔を志のぶ大内もあやめ根ざり長
き世のためしと成る今世も絶ぬ五節の舞姫のまわりの儀式
めぐたし

浦分衣

ナニハ 下河邊宗琴

高きやねのりり見ぬ大伴の三つは浦浪打霞けふあはれ
の心あれ人ふ見せそや。其名むして難波瀉塩焼連も殿六
民の竈戸の夕烟。櫻の宮は移り香を移し植かん九軒町入来
人の大漆。ふぬ山をの生玉の光あそふ酒廣明石月の昔も
をぬ方世とげふ森林の宮亀井の水は底ひき。待戀ぬん住吉
の岸の姫松我見ても久敷成るあつぱ。拾ひぬゆん戀忘貝
木は花

京 永野貞信
同元子

唐士の人ふ見せそや敷嶋の倭嶋根の櫻花華の顔かせつら
志ろく吉野よく見よう。とて人たふゆも春風ふ。ちりう曇
るあざ桜あめ色香にあく。目もをぬ。とどろの根の氷き
春日浅情なき身ゆもあそ。またひ来。實木の花は咲や姫
はくひあそ。草も木も多うけ中み木の花乃。華ふまはゆる
花もち。ゆ。さゆ。ふ。時。南殿の御階天放る。ひの伏
屋もたげけや。一重に八重に九重に幾春。け。咲。栄えん
呉竹

呉竹

イヨ 黒田琴翁

呉竹も時や来ぬ。人琴や成殊ふれも。此君の清き心を音ふ
あめ直ち竹の二節。二絃懸くひき。神を涼しめ君が
世浅言賀。う。右竹の世々を重く調へ栄ん

竹の都

三カハ 酒井松琴
京 西村敬琴

君や来し我や行くんねもほろぬ夢ろろろか定法々夢ろ小若り
花のかり錦ちをほろりたるや々々其を拂ふ力もたろり。乱る
みせり女郎花尾花の袖のせまろればかくきとろれや朝鳥の露ふ
やほろろ昔ぬかろる。今あごちを藤袴忘るかた身もぬきけ
ろ。やめろ白ひをほろひ来る風ぬも靡く葛の葉ハ絶ぬろろみや
残まろん竹の都れ名のろろ。はれき秋の花ろの

安國曲

西京鈴木榮琴

四方八隅夷從服ろ安の國ろ樂き神代ろ天津日嗣の高御座
君も萬世臣も千代やろろかきろの岩枕若むろ遠も松の葉れ功
正ろ敷嶋の大和の國細ろ千足夏れ里ちろろ。かけ夏ろ
豐なる。神の恵も人皆の麻取むけろ祭ろる昔ちろの御手
みせり月日や若小明ろけろ天地やじた限ろろ。幾萬世も

ゆるろろはるるろ

堅石組

伊勢詣

琴主

旅衣ろろろと立出る。雲哉ろろろ東路へ馴れ都を跡ぬ
見ろ名残盡せぬ白川や。龍津流の未遠ろ見送る友もろろ。
行逢坂の関路ちろ。清水の影ぬまろろ。汲盆も遠近の山も霞
ろ近江路や。日ぬけろろ旅の空行へ何國や定めろ心も廣き
武蔵野や。陸奥追行見んや。元よる神ぬけけろ。伊勢路の名
所爰かろめろろ清き神の代流絶せぬ宮川の岸打浪も杉の
名も高倉山小宮人の神遊びも音もろろ。御神樂ろろ聲
けろたろろき。

神の都

イセ御巫清直

渡會や大川野邊オホカハノ行水ユクミツの行ユキくわくわ年浪トシナミの又マタ越コエ朝風アサカゼ。
瀬セの薄氷ウスラヒとけ初ソメ思オモひもあけふ百千鳥モ、チトリはくもまをひくも
志シげも岸キシの杉村スキムラ一ヒトの緑キナもまひく長閑ノトカを日影ヒカケあたる
ぬぎの里サトヤマトク山田ハラの原ハラの時トキりきく民タミのかまやのゆきまをハルカスミカミヨか朝アサ
氣ケの烟ケフリさへ高倉山タカクラヤマのふもとを追オヒ立タツ續ツグきたる春霞ハルカスミカミヨ神代トホを遠トホくる
たつん。神代ヨサマや遠ナシく。なたち行ユクん
治ヨサマる浪ナシ

エト大 翠峯

幾千代も治イッる御世ミヨのあまがたき君キミが恵メみ四方ヨモの海ウミ八重ヤヘの汐路シホヂも
わたやくも緑色ミドリイロまの浦松ウラマツをのり朝日アサヒのゆきまや神カミの教ノシは
大オホらく人の心ココロも自ら和オハらぐ國クニはやま行ユク唐國カラクニマデ追オヒも志シたひ来キく
貢ミツキの船フネは綱手ツナテ繩ナカ長ナカくたえせび志シき浪ナミの伊勢イセの大神オホカミ守モ座マスん
百枝モ、エの松マツ

八雲琴言 千重琴

豊受トヨウケの神カミは御園ミソノの榊サカキハ比ヒ栄サカ久クき神カミの代ヨを思オモひ御池ミイケの涼スシ
さむ百枝モ、エの松マツ乃イロ色イロまひ清キヨき恵ノグミの深フカみどり立タツや岩戸イハトの春霞ハルカスミ
高天タカマの原ハラは朝景アサケシキ色シキまれ渡ワタ里リたる天地アノツチの光ヒカリく月ツキ見ミのさ
やけ照テらけ君キミが代ヨの並ナミらけき姫ヒメ小松川コマツカハへ小續コツグく青柳アヲヤギの靡た
姿スカタを引ヒキ分ワケく吹渡フキワタる濱ハマ荻ヨギのゆきま風カゼともろもあけふ打出ウチ出デ
濱ハマの浪間ナミマより渚ナギサもよほるも月草ツキクサ二見フタミの浦ウラ乃オキ沖シマつ玉タマ千尋チヒロの海ウミ
の底ソコよりゆきま出イテ昇ノボる日ヒのうへは高根タカネ小影コカゲを移ウツせま
五十鈴イ川ス

京新宮涼琴

身ミそぎし身ミもほそ川カハの底ソコ清キヨく。くろくをさる神垣カミカキの内ウチ

神路山 琴 玉

いそよもかこころれか。天照アマテらけ日ヒの大神オホカミの宮ミヤ柱ハラ太敷フトシクたて
天地アメツチの其始ソノハジめより皇スノロギの御世ミヨを守モる神路山カミチヤマ千枝チエタの杉スキ並ナミ立タチる

流盡せぬ五十鈴川深き色も鳩口の紅葉照る朝日山かや
き渡る宇治の橋遙小わりの高根とる鼓嶽を打詠音を山と
め手小見く登り下りの坂中子彈糸の音もくれめの左舞袖の
こやかゆ揃ふ拍子も合の山あそぬ志るべのあや先行人のたえ
まぬ山田小通ふ小田の橋霞もくぬ宮崎小昔を移り櫻木
の實むえの花の九重の春の錦ふまはるる

常磐組

御世の榮

琴主
エト揚琴

高光日の大神ちいさくもかこくも天の原知食ぞと誰し
其皇御孫の大君の豊葦原の主とる我國や天竺の夷とも皆順
る天の下天津日嗣と成給ひ故紆君と仰を其大君の枝御
子の八十續はつひ御まかこく降ちたる世の乱を平治く

二荒の山小宮柱太敷た御功德天津雲井小高志らるる
例もあづぬの國の御柱動きぬ君哉守護の此君は直たぬ
竹の世々長く恵をあらは武の八十宇治川の川水乃流ハ盡し
せや世を人毎小言賀君小昔くぬ神は道神をひたる日の
本ハ幾萬世も末遠く治る御世もや尊とる

飛鳥山

坪内好琴

實や名小聞寂光の都喜見城かや思ふ東を関も戸は
ぬ天の下草木も靡く榮くれ不二のみゆさ昔よる只白妙ふ高
く吾妻女のくせをぬゆきけかか天雲の雲は衾小よる添
て春の光はあたる雪も氷も打とけ流んもの人心を
かたるあはる山

千秋の榮

大田曲共

梶谷 富喜琴
壽惠琴

白雲の置^{シラクモ}く^{オキ}なびくる^{タニクサ}民草の^{チマチ}千町の^{ヲタ}小田は^{ヤツカホ}八東穂小^ホ賤^{シツ}が^{シワガ}仕業の^{カミ}神も^{キミ}く^{アケ}し^{トマヤ}。君も^{アキカセ}め^ミづ^{アキカセ}し^ミ。明^{アケ}の^{トマヤ}たの^{アキカセ}苦屋小も^{アキカセ}り^ミ。秋風の^{アキカセ}身小^{アキカセ}志^{アキカセ}じ^ミく^{アキカセ}。や^{アキカセ}ど^{アキカセ}も^{アキカセ}猶^{アキカセ}雲吹^{アキカセ}去^{アキカセ}づ^{アキカセ}め^{アキカセ}世の中^{アキカセ}を^{アキカセ}。千代^{チヨ}も^{チヨ}な^{チヨ}ま^{チヨ}き^{チヨ}く^{チヨ}。稻^{イネ}乃^{イネ}浪^{イネ}合^{イネ}手^{イネ}度^{イネ}。幸^{チチ}も^{チチ}居^{チチ}て^{チチ}も^{チチ}御世^{ミヨ}を^{ミヨ}祝^{ミヨ}ひ^{ミヨ}し^{ミヨ}つ^{ミヨ}も^{ミヨ}千秋^{チウキウ}の^{チウキウ}榮願^{チウキウ}を^{チウキウ}ん

宮城野

琴 主

み^{トモ}らの^{ミヤノ}く^{ミヤノ}れ^{ミヤノ}。ゆ^{ミヤノ}き^{ミヤノ}友^{ミヤノ}や^{ミヤノ}都^{ミヤノ}べ^{ミヤノ}ふ^{ミヤノ}。か^{ミヤノ}わ^{ミヤノ}く^{ミヤノ}契^{ミヤノ}了^{ミヤノ}言^{ミヤノ}の^{ミヤノ}葉^{ミヤノ}は^{ミヤノ}昔^{ミヤノ}秋^{ミヤノ}た^{ミヤノ}ひ^{ミヤノ}八雲^{ヤクモ}立^{ヤクモ}出^{ヤクモ}雲^{ヤクモ}小^{ヤクモ}琴^{ヤクモ}の^{ヤクモ}二^{ヤクモ}筋^{ヤクモ}小^{ヤクモ}な^{ヤクモ}び^{ヤクモ}く^{ヤクモ}尾^{ヲビ}花^{ヲビ}の^{ヲビ}露^{ヲビ}分^{ヲビ}け^{ヲビ}け^{ヲビ}く^{ヲビ}。爰^コ小^コ官^{クワン}城^{シヤウ}野^ノの^ノ千^チ草^{ソウ}小^{ソウ}な^{ソウ}だ^{ソウ}く^{ソウ}虫^{ムシ}の^{ムシ}音^ネは^ネ。去^キる^キを^キな^キら^キ種^{クサ}々^{ハナ}の^{ハナ}花^{ハナ}の^{ハナ}色^{イロ}も^{イロ}深^{フカ}ま^{フカ}は^{フカ}る^{フカ}。深^{フカ}き^{フカ}を^{フカ}あ^{フカ}ひ^{フカ}は^{フカ}底^{ソコ}清^{キヨ}く^{キヨ}も^{キヨ}な^{キヨ}る^{キヨ}。流^{ナガレ}を^{ナガレ}汲^{クミ}く^{クミ}る^{クミ}。遊^{アソブ}び^{アソブ}小^{チガ}長^{チガ}き^{チガ}夜^ヨも^ヨ早^{ハヤ}曉^{アカツキ}の^{アカツキ}わ^{アカツキ}く^{アカツキ}よ^{アカツキ}る^{アカツキ}。あ^{フカ}ひ^{フカ}別^{ワカ}の^{ワカ}初^{ハジ}め^{ハジ}を^{ハジ}つ^{ハジ}ひ^{ハジ}く^{ハジ}空^{ソラ}小^{トビ}飛^{トリ}鳥^{トリ}の^{トリ}跡^{アト}を^{アト}志^シた^シひ^シく^シ行^{ユク}秋^{アキ}の^{アキ}名^ナ残^{コリ}を^{コリ}流^{トコ}小^{トコ}な^{トコ}ま^{トコ}き^{トコ}の^{トコ}石^{イシ}ゆ^{イシ}れ^{イシ}て^{イシ}か^{イシ}る^{イシ}は^{イシ}の^{イシ}袖^{スベ}は^{スベ}上^ヘふ^ヘ。う^{シゲレ}る^{マツカセ}時^{トキ}雨^{アメ}う^{アメ}松^{マツ}風^{カゼ}は^{カゼ}音^ネの^ネみ^ネ綾^{アヤ}小^{アヤ}残^{コリ}は^{コリ}ん^{コリ}音^ネの^ネ續^{ツグ}ぶ^{ツグ}

二ノ九

の^ノし^ノれ^ノり^ノな^ノ

千賀の浦

京 高津梅 琴 主

と^{トホ}ふ^{トホ}く^{トホ}や^{トホ}。あ^{チノク}ゆ^{チノク}も^{チノク}遠^{チノク}き^{チノク}陸^{チノク}奥^{チノク}の^{チノク}千^{チノク}賀^{チノク}は^{チノク}烟^{ケフリ}も^{ケフリ}極^{シホ}竈^{カマ}の^{タカ}高^{ニヤ}き^{ニヤ}宮^{ニヤ}お^{ニヤ}小^マ菴^{ノホ}登^{アフ}り^{カミ}。仰^{カミ}ぐ^{カミ}神^{カミ}路^チの^チ灯^{トモ}火^{シロ}乃^{ヒカリ}。光^{ヒカリ}絶^{ヒカリ}せ^{ヒカリ}女^{メノ}藤^{フヂ}塚^{ツカ}の^カ歌^カ仙^{セン}は^{イホ}菴^{イホ}ゆ^{イホ}り^{イホ}。月^{ツキ}の^{カゲ}影^{カゲ}を^{タノ}頼^{ヤト}小^{ヤト}宿^{ヤト}志^{ヤト}る^{ヤト}。詠^{ナカ}も^{ナカ}長^{ナカ}き^{ナカ}秋^{アキ}の^ヨ夜^ヨは^{フケ}。更^チく^チ千^チ鳥^{トリ}が^チ鳴^{ナギ}渡^{ワタ}る^{ナギワタ}。野^ノ田^タは^タ玉^{タマ}川^{カハ}名^ナの^{スエ}み^{マツ}ゆ^{マツ}。末^{スエ}の^{マツ}松^{マツ}山^{ヤマ}浪^{ナミ}は^{ナミ}ゆ^{ナミ}る^{ナミ}。松^{マツ}が^{マツ}浦^{ウラ}嶋^{シマ}沖^{オキ}の^{イシ}石^{イシ}海^{ウミ}魚^{イサ}。廣^{ヒロ}く^シ見^ミ渡^{ワタ}せ^{マカキ}。籬^シが^シ嶋^{シマ}の^{シマ}霧^{キリ}を^{タナ}ま^{ナミ}り^{ナミ}。立^{タチ}並^{ナミ}び^{ナミ}る^{ナミ}。遠^チ近^チの^{シマ}嶋^{シマ}乃^{ケシキ}氣^{ケシキ}色^{ケシキ}も^{ケシキ}名^ナゆ^ナら^{マツ}。松^{マツ}は^{カケ}海^{ウミ}懸^{カケ}く^{ナカ}詠^{ナカ}ん^{ナカ}。あ^{フネ}ま^{フネ}の^{ウチ}小^{フネ}舟^{フネ}ふ^{ウチ}打^{ウチ}乗^{ウチ}る^{ウチ}。こ^{ウキ}も^{ウキ}浮^{ウキ}る^{ウキ}。ゆ^{ウキ}や^{ウキ}げ^{ウキ}ふ^{ウキ}め^{ウキ}づ^{ウキ}。き^{ツキ}月^{ツキ}見^{サキ}崎^{カスミ}霞^{ウラ}が^{ウラ}浦^{ウラ}の^{ウラ}夕^{ユフ}ま^{ユフ}ぐ^{ユフ}れ^{ユフ}。雄^{ヲシマ}嶋^{ヲシマ}ま^{ヲシマ}嶋^{ヲシマ}の^{シマ}松^{マツ}風^{カゼ}小^{シマ}。通^{マノ}る^{マノ}八^{ヤクモ}雲^{ヤクモ}の^ネ琴^ネは^ネ音^ネを^{ノコ}志^{ノコ}す^{ノコ}。残^{ノコ}る^{ノコ}。富^{トミ}山^{ヤマ}小^{ヤマ}。不^{フジ}二^{フジ}の^{タカ}高^{タカ}根^ネや^{タカネ}。金^コ花^カ山^{ヤマ}回^{ヨモ}方^{ヨモ}の^{ウラ}嶋^{ウラ}々^{ウラ}浦^{ウラ}々^{ウラ}も^チ皆^チ前^チ裁^チの^チた^チく^チみ^チる^チや^チみ^チん^チ。

東の名残

琴 主

武蔵野の月城尋ね去の春来て詠も有明の光長閑き君の世は
長き根は一哉かきりとなく言賀まつり蘆のやれ恵ハ深き八千草の
花も葉も置あまの露のちあけを汲交しやれ別々言は葉
の盡ぬ名残も八雲立出雲小琴の清き音小志る金残し行秋の
空澄のり月影の跡を志たひく東路を遠くをたけ信濃路や
洲羽の宮おをさし拜みきそ川霧の中今く九重小立帰る

上代組

高倉山

イセ本 居宣長

琴 主 調

豊受の神は恵ハ尊きもよ命つらけの恵乃尊きかもよ

庭津鳥

ムサシ 孝 譽 可 雲

あり時々夜や成ぬん庭つ鳥かけると鳴ぬれも鳴なる鳥り
此鳥の鳴びくあぶつるも昼やももんつれも夜も念ん

唐人の流れるを時守はあを鼓もたよのたあくか
天地の自らぬる汝時小あふまあやうを神代乃
昔此鳥の長鳴志ゆ皇神も御心やけ岩屋戸を押開せも回
方の國やあ行間も益人のく眼も志ぬのめ朗々と明あけれ

宮の吟

エト 神 隨 舎

琴 主 調

宮の女は神は恵を松風の吹や夕小絃竹の志へやけき舞乃
手ははせの事なきわ体追も雅調の神は雅夏仰がぬ人のあ
ま其直會の遊びも皆打さけ中垣の念だもあけの
る自らぬる魂まぐる命を返る神事小百子萬のよも夏を人
あたる神をぬお多福や世小字も笑ふ門の福きた家も
ゆたふ小万代の杉も名もあそくた

岩戸開

エト 巖 櫃 本

琴 主 調

明立天照國の日宮の御門押張天地の底際の内小高光る日大御
 神八束髪佐須良命神性の荒び小よる石戸閉刺隠せり意
 小思ひをるる八百万神の招へ鎮魂祭の起元香山の五百枝賢木の
 上枝少の真玉を懸中枝小鏡懸下枝小木綿を取垂御幣や
 伊取捧々太告刀称申せり神等の遊の場小香弓哉取並々楡
 彈や御琴小製々香山の竹本末打切々御笛小調へ一二三四五
 六七八九十百千万や宇氣伏々踏とるる天原動るげ々謡
 舞奏給々大御神細目小聞て見行は御戸を開々石門破其手力
 の功も立々々時小天万榜幡千幡千々姫ハ御手賜々大御身を出
 奉とり天地の常夜往々速炳々光輝ひ千早振荒振神の狂態更
 も除王盡ぬ天照日女命天足々至々遺さぬ大御稜威御恩頼
 並びち々尊々有々々阿々波々礼々甚切樂々甚切何怜甚切清

亮飲饌阿々波々礼々天鈿女の神樂三感させり神隨々々

天の御柱

エト 鈴木重兼 琴 主 調

天の御柱行めり。神のむら玉合々々々かた々々のあれや。
 契の御心哉々々々小起り國つら小め哉のむらびの中より
 誠あれもはれはれ々々々々

天浮橋

ムサン 頤 神 堂 琴 主 調

懸巻もあや小か々々々々伊奘諾の神は
 みまると伊奘冊の姫大神と天の原宇支橋の上ゆ久堅の天沼原を
 けららるるかきちりませる。牙先の志ねも小成ら小自瘰の嶋と成
 小き其嶋を御柱や々々々左とる。男神いめをる。右より女神いれ
 ぐりあや小やと。みま。伊。小。あ。ひ。つ。ま。
 國の御名も大倭豊秋津洲百足は伊豫二名嶋八百ま

はくらの嶋二子を以て佐渡の越の嶋次小大洲其次小
吉備の児嶋と八洲國産すよと天地や日月と俱ふたるゆん神
のみおもと潮沫の次々こるも生出る嶋の八十洲志ろを以て神の
八十神數万のあめの益人百千の少男少女の妻ごひもみぢりえ
浮橋の神代は昔尊かをり。まれをいへや。あつ
びあゝめやも

八雲琴譜附録今様表組十六曲

倭琴

平田兼公翁

倭玉琴の高光る。日の大神の岩屋戸小籠ら。時香ゆみ浅。
六張搔並へ管を持。かあてみりめ奉。今の神樂の始めり。
天の沼琴

八雲琴主

琴の心はをきし心なみの命ふ起し酒佐之男の神小賜ひ久方の
天のぬ琴の天の下志せり神のそあたる。み寶わとつりき。
神の志と八千才は神小賜ひ詔琴の其其のあやひ。
此二つ絃の八雲立出雲の琴ははくら出尊きまを引くは。

神傳

同

神の傳への二筋は出雲の琴の心へ天乃ぬ琴の奇き音哉。
移しひろく志へは。倭嶋根の動きは。御世を夏賀搔をり。

琴の御霊

國造尊孫宿祢

八色の雲立を見く。作らざる人御言葉の三十文字あり一文字に
撥合せたり。二つ絃の琴へは音をばいさしれ。の神は御霊や籠るらむ。

御まはり

北嶋出雲内孝宿祢

天の沼琴は移はる。八雲小琴の音成さしけ。神の御琴の木ふり
はちやるるま。其音小逐去る。人御まはりの其古更そまはる。

須佐詣

琴主

天の沼琴のまわす。須佐の御神を拜まを。八重山深くまわのり。
神まはたる。大宮小八雲小琴をまはる。神の御琴を志のむ。

小夜千鳥

和栗直琴

八雲棚引を床のま。宮の尾山と中山の中を流はる。まが。うま。
聲もはやけくも。ひびく。鳴く友よ。はよ千鳥神代の歌やまらる。

稲田の宮

御巫清直

いさだの宮のうら。八重はきぬ恒押を。手玉ゆ。よな。やめ。
撥引琴の音を清く。まの湯山のさせの葉を。けふさうてを舞遊ぶ。

二、

鳴重胤

綾ふか。こも。大穴年遅。少毘子那の二柱。な。ひた。天の下。
はるを給ひ。御功を。琴小作。ま。世の人。は。や。神心。

國はるり

琴主

出雲の神の天の下。主領ま。御時小豊葦原のあ。ま。神。
乎治ま。陸田百穀民小な。ひ。神を。朝よ。拜ま。ま。

神あま

鶴峯戊申

出雲の國小神ま。琴引山の岩や。の大國主の御琴ゆ。
神代の志。や。残る。け。小玉恒の内。つ國神遊。を。樂。

藥王神

けたの崎を白鬼お小をひきむきひるやら皮をまねれ赤たけ
大國主の御教へふ。かまの花もまらふと。是由けがれり醫業

海神曲

杵築の宮小神々の集ひまらる其中小海神と皇の御使や
しれき小濱の浪をわけ。年毎龍蛇のまひきまら神有月をくじり

辨才天

あまの名高きしちき鳴諸小光る大宮ら。あけくれ汐のみちひり
綾小尊き鳴姫の。霊の琴を搔をく人の守護やをうたふ

若笑美須

事代主の大神の物の祭を三穗の関此浦浪小竿たると
鯛をほくくしをれり。ちきぬし神と天の下あまぬ人のうけ

大膳翠琴

平岡松琴

古川龍琴

田口亀子

萬代

聲もかたも久き。二つ絃琴を作て出志くを中山の
琴主と元祖琴のひちりと萬世小弾傳へけあま

出雲國麻呂宿禰

神代琴

神代の琴も。志くぬやも。君いけふ。八雲琴
その音をまひきむか。古例ぞ神代の琴をうん

嶋重老

縁結

かこよよ世の中は吉事守らむ世の人の縁まらむ八雲立
出雲小神の大神の結び給へむとせ。二つ絃の琴尊し神

佐草美清

神と君

八雲小琴ハ。玉ちをふ。神や君やのふたをら
みちをわけたれ。世ふたぐひをまはせ

平岡雅足

友賀喜

北島孝通

中山ナカヤマのやまのやまの友賀喜トモガキが八雲ヤクモを小琴コゴトを作し神カミつ代ヨに尊ウツきまを二ツ結ムスぶ志シるべかりつ其調ソノシラベあれ面白オモシロやあを休やすやけ。

さき姫山

佐草文清

國クニ引ヒキまゝ淡美豆ぬの神カミの命ミコトは御功ミイサヲをたもひ出雲イツモの浦ウラをみのおよせかゝる長濱ナカハマの真砂マサゴは未スエふしきびく栄サカえたるまき山ヒメヤマ。

大官所

梶谷琴翁

百八十神モヤソカミの神集カミツトひ并ナ葉給キツキタマひ幽事カミコトの大官所オホミヤトコロ志シるべかり地震チも治チちまふはるる常盤トキハカキハ堅磐ツゴキ小動ウゴキかく秋アキつ鳴根シメネを守マモりませ。

琴の幸

中言林

天アメの沼琴ヌマコトを取持トリモテかへまきまゝ天アメの下シタツク造タマり給コトひ琴コトの世ヨを常盤トキハ小守マモり密カカラも此二ツ結コノフタツクの八雲ヤクモ琴コト我ワレも志シるべかり幸サチやえむ。

うかの里

竹下孝裡

神カミの都ミヤコの幾千イクチとせ幾万イクマンとせふま々オホミヤトコロ大官所オホミヤトコロのや高くタカ青垣山アヲカキヤマをめぐり物モノさひたる出雲路イツモヂのうかの里サトコソクノ社サト々々クニ。

出雲浦

佐草武清

小濱コハマ小見渡コミワタせの沖ネキのとも鳴シマつ鳴シマさ船ヒメの山ヤマや石見イハミかゝる浪ナミの千里チサトは遠オチコチ近アマ小番コフネの舟フネのほのく霞カスミケ氣キをたぐひたま。

御手ふる

北鳴榮琴

八雲ヤクモ小琴コゴトの管スカカキ撥イトへ糸イトをくぐり神カミつ代ヨの此大國コノオホクニを志シるべかり傳ツタへまゝ神事カミコトの其古ソノイミシへの御手ミテふるもなほひやられず。

八雲のたま

佐草春琴

たへちりかよハツ目ヤさけ出雲イツモの山ヤマ乃松風マツカゼも瀧タキのひきも通カヨひまゝ志シるべかり琴コトの音ネは此大官コノオホミヤ小かコトりす神カミもたぐいとまゝ。

いづの浦

東京 歌木 榮 琴

あまの舟はいづの浦を火のまらまらと流しつ浪をいづの浦に燃れ
見らぬ舟は涼く。いづの浦のいづの浦も。夏てふ舟はうらやま。

琴引山

同 堀内 榮 琴

天津御のまは幽事を志し給ひ出雲のや。琴引山のその石を。
かたもたうらに若む。神代ゆ。志のふれを松風のふを吹ま。

うはくかく社

ブンゴ 徳應 静 琴

うはくかくのふた道を二ツの縁わかひまも。かこき神代の神がたり。
今のうはくかくのふた出。あやふたなる志のふれをかくの神の守ま。

目の御神

エト 久保季茲

八方小名高き出雲なる。一畑山の御薬師少御神の御霊や。
民の眼は音も。明く清く御功と仰ぐぬ人のたうらま。

九重春

京 永野元琴

名ゆなひたる九重の空ぞ長閑き四方八方の花の盛りと詠め。
山路も野路も雲上も錦のゆる雅人の行く袖をかきら。

八十の遊

日 高津梅琴

流したるせびか茂川の岸は松風通ひ来。八雲小琴小調へ。
齢を長く千代と。友よひたて明くれ。千鳥も老をいふらん。

あやむら

日 西村敬琴

実九重の名ゆたへる平野の原は綾板の太く高く生志げ。
神さびたてく尊さ。其古へを志のひつ。八雲小琴小調へ。

天の橋立

ヒツ中 和栗 榮 琴

生野の道は遠く。大江山ふみ。海中小長くかけ渡り。
天の橋立。海渚ふ光る本伊勢の神乃昔を志のむ。

三輪詣

八咫の鏡小取つけく。大和の三輪小神づま。大物主の現身と。
八坂乃玉を纏ひきく。八十のくまふとにへふ。かぐらひの奇びなる。

京 橋本田鶴琴

みよりの

此日の本乃吉野山花のゆくる白雲のたぐ天地小たぐよひく。
たれ引渡る景色をを唐人小はあらん。皆人々をかたむら。

京 田中榮琴

和哥の浦

神の御跡をたき給ふ。名もたもくさ。和の浦其又昔海底乃
沙みつ玉のくひ出鳴の詠も今ふたや。やあふたつぞ鳴。

京 山田春琴

住吉詣

岸の姫松春毎小色うらうらき深みどり抑住吉の大神と。
和歌の道ははひきく。やめつぎ。作かたき。宮あ。幾世るん。

二一十七

三つの浦

三つの浦浪打霞其名わける。難波つふ咲やこの花名もたぐき。
八雲小琴小位の江は松の嵐を通ひきく。志くさや小成ふら。

京 三井高素琴

須廣明石

明石の浦小舟とめく。汐待宵の月見ぬ。まの松風夜もはか。
八雲小琴に通ひきく。志くさやあまの鳴遠く。あまの鳴遠く。

同 西村三琴

金毘羅山

八方小名高き象頭山あやの松山神さび。あや小流を瀧川に。
音も高松八鳴か。志くさや田鶴輪白鳥の宮あ尊くさ。持む。

サメキ 渡邊水琴

大三鳴

大山積ハあゝぬの國地を守る大神なり。やの鳴小鎮座く。
此日の本を異國よりわらふか。き。着る。ほら。給ふ御功あ。

イヨ 小野瀧琴

玉の浦

朝日かやく玉の浦出入舟のたをりも賑ふ大みちを
四方の詠ふゆるるをわく時をらるる晩のぬ大室山の秋の月

太宰府

はくらの國乃たをらふの梅乃名ふたふ大宮いあまの神の御鎮
いともかこくき君の世の榮を長く益人の書は守護やわらうふ

高千穂

萬千秋の長秋小豊葦原を鎮むと皇大御神八百萬
神小計らせ皇御孫の天降座く高千穂のくく方嶽を奇なる

笠沙宮

大國主小幽事ハゆるり給ひく日の御子と。かたの宮小天の下
志ろくめく官所今ハ薩摩の加世田と。郷の名小社とやをれ

吉村浦琴

長岡久琴

是枝生胤

前田稲足

神の御陵

薩摩の國北新田江ハ我皇御孫の御陵を大隅の國あひぬる
彦火々出見の御陵を。あひぬるの鴉戸ハ昔不令神の御陵を

後醍院眞柱

琴主

わづれ都をあふ見を名残盡せぬ白川や流との末遠く
雲吹送るあふの風をたる水小鳥鳴あふの方をくたけり

竹生鳴

明石安琴

瀨田石山の秋乃月矢橋小三井の晩のぬあつや志賀の松風哉
かた小舟は真帆ふけ浪路平小竹生鳴神の御前小付ふけり

養老の瀧

眞名井樂琴

老を養ふ瀧つ瀧の音を八雲の玉琴小。撥合せはくまき水乃
名高き千代の山櫻詠涼く照月を朝日小移りすの雪

高天の原

榮久しき榊葉小。百枝の松の色まじり。清き恵の深みきね。
立や岩戸の春霞高天比原比朝けき。それ渡りたる天の下。

神路山

かゝるれも天照らひ日の大神乃宮柱をくくたてて天地結
其をもめよる皇王乃御世を守りての神路山流盡せぬ五十鈴川

二見の浦

二見の浦は朝氣色渚よりほろもほ草まきまきの松比木の園より
浪路もろかひ見渡せぬ。やの高根ふらりけ。昇る朝日ぞゆきり

ふりの詠

出る朝日とくく日の。只さけを打詠。原吉原小宿しをん。
磯邊は通ふ松風と。俱ふ志づる琴の音小。千代の齡や返あらん。

琴の利生

我須勢里姫。江の嶋乃辨才天の廣前小。調ふ琴の音おつね。
青風通ひ夏の日は夕立から涼しさを。此嶋姫の利生をる。

鎌倉めぐり

相摸の國乃かまぐりの。かやき渡り鶴岡八幡宮を。初をんを。
名所旧跡めぐりを。其ゆゑよる郷人小同く昔をしのぶる乳。

金澤八景

武蔵の國は金澤の。待宵月を詠めひと。扇がのほ小宿しをん。
かひなく空小雲立ち浦さびしくも秋風の音は。一夜の名残る乳。

金川墓

金川墓の夕氣色。松の下つゆも月の影を頼み宿しをん。
海原遠く見渡せば突面白き浪風乃。まゝへを琴に通ひをる。

琴土

同

同

同

同

吉田清琴

石村榮琴

琴主

武蔵野

雲の上を咲花も。色はかきく月影も。さやう照は武蔵の。はてちう浅る八千草の恵尽きぬ君う世の栄を琴小橙くは

忘がた身

琴主

月を頼ふ尋きく宿るかひなき武蔵野の。それく浅る八千草の。只ちうと秋風小吹きくせむ藤袴忘れし。みゆぬぎておく。

盡ぬ別路

中條真左琴

山の真清水底ひ彩。汲く嬉きまきく千代も。かれく追を。あはゆる何とまかのわろ長き契。成たのめも。尽ぬ別路のくは

雲の上

中條幸琴

神の恵小幾千里。遠くるたちく東を。武蔵の江戸小榮ゆ。八雲小琴を雲の上小又引く。都ゆも。はきぬ志くめてたう。

月の名残

松平田鶴子

嶺の松風夜もほく志く琴の糸なを鳴虫の音も冬かれ。千草の露小移り行月の名残も武蔵の。朝風のふを吹きたる。

かへ諸

大岸時琴

鹿鳴の宮小春のぼる東の海を見渡せ。浪路をうか小出り日の。光りかやく廣前小八雲小琴の音を清み。万代長久志くへね。

名、我の関

琴主

名、我の関乃山櫻見らめ。海原の渚は。小行なれ。磯辺は松の葉く。わたむく月の影小猶我古郷を志のを。

みやぎ野

龍光院左太利

君のをくみちのくは。我を尋く宮城野小咲乱きたる。菽の家乃。月もれや。小置露の名残を琴小引く。身社悲先。

あぢ野

琴主

秋も更行たゞれぬ。あへの原を見渡せば。樹々の梢も錦しく。千草の中も鳴きあはる。虫は聲をたると。小萩吹風の身もぞも。

野田の玉川

佐藤忠琴子

行へも遠きみちのくは。野田小舟身ぞ鳴渡る。末の松山浪もは。ちかの煙も志ほる。高き宮お小菴のり。八雲小琴を掻き。

松一泊

石川石琴

さみ松鳴の見渡し。かゝる追も聞えたる。霞が浦の夕もろく。女鳴を鳴の其けしき。月見崎の秋のり。大高森乃雪のそ。

金花山

哥木菊琴

名高きむらの金花山。鐘をあひつふ山鳥の渡も。小舟小舟乗。うづまく浪を漕渡。辨才天の廣前。小八雲小琴を掻き。

日光詣

川口榮琴

ふたらの山は。たゞき大國主の御志。まを麓も高きあ。まて。宮の四方。八方天の下。かやき渡る。尊き浅あ。たぬ人。わたり。

洲羽

琴主

志れのまは。の大宮。比廣前。高き春の。まを。のみ雪を詠め。調る琴の音。とくも。小旅路の。は。水海。小搔。か。ひ。を。嬉。し。色。

諏訪の元

諏方信古琴

尊きすは。の大神。乃御手。小捧。け。千引石。今も。出雲。小有。と。聞。つ。ふ。手。の。鳴。と。ど。ち。る。も。小。其。か。じ。の。た。は。や。此。海。の。小。玉。石。

秋の宮

同 貞政琴

空も志流々。夜もは。搔。か。り。琴の。ま。を。み。山。風。や。通。る。ん。海原。照。ら。り。月。清。み。秋。の。宮。の。紅。葉。を。か。ゆ。ふ。さ。う。て。を。遊。び。る。

津鳴詣

琴主

きそこの山路をけりくこと。尾張の國小歸をつ。熱田の宮ゆ一の宮。
はしきく小まきく夜もほろ。此大宮の廣前小八雲小琴を権明。

龍田の御霊

龍野 東一治部
普門 訶海

天地開は其中小。目少へ見えぬと。律も。二ツの物乃律。ア
萬聲あ。物小みれ科戸の靈あ。正風合は奇びなる。

自の古へ

琴主

自のつゆへ。大倭。大比古命の正流なり。八雲御神の御恵の。
ふかき御靈をわらう。生出我二ツ絃の琴を作。琴の元祖。

琴乃守護神

宮城琴守

出雲の琴の守護とす。青風大田の二神。人ふあられ。詔言小。
八雲は琴をかきけ。民の榮を。萬代も守るとあ。くひりか。

神典今様

世のまぐめ

大瀧光憲

天のみれくふ。神づまを。たけまかま。たまあひり。
むむびの神やあをれ。一つのもれ。ちりませ。

むむび

同 光賢

いを。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
うむむび。まら。まら。まら。まら。まら。まら。まら。まら。

くみはら

田村長柄

たかまは。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
わきたあ。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。

うきあ

川口固成

國。うきあ。うきあ。うきあ。うきあ。うきあ。うきあ。うきあ。
か。ま。れ。ゆ。世の中。おもの。根。ぎ。うきあ。

天瓊矛

安部彦琴

やひろのやせを。みたきまほ。くびのよゆ。杉原やしほ。
國たるをたへ。其もた。あそめのぬほあふ。しほくたる。

いもせ

宮野直勝

天のみも。ゆきめぐを。みやあたまほ。あれあや。
うま。神のちぎら。國をも神をも。いみまき。

ひろお

廣瀬巖雄

あやゆきたち。まがひよを。みとせふたるま。あいたま。
國かたたる。あま。たう。うて。みまひら。

あは志ま

栗地出琴

みちうのちら。はら。やせま。はひは。や。
やま。はら。の。ま。あ。み。の。ほ。

うづのこ子

宮城直享

ひろめ。はきよみ。まのま。三つの大^{カニ}神。くふうみ。
御^{カニ}杉の神。うづのみ。尊^{メフト}き。たぐひ。

みそま

秋野重儀

よみ。の。た。れ。き。よ。は。ら。の。ま。あ。れ。ま。し。
神のあたま。おき。つ。は。み。あ。れ。ま。し。

うけび

樋口立琴

うけびの中^カ。たるま。あま。ひら。日^ヒの神^{カニ}。
まの。み。か。の。ま。か。ら。う。は。つ。と。み。れ。ま。し。

國むけ

西沢賢琴

あつ。は。ら。の。ま。あ。ま。の。ほ。あ。は。た。た。ま。し。ち。あ。や。ら。
神^{カニ}を。た。へ。う。は。ら。の。ま。あ。ま。の。ほ。あ。は。た。た。ま。し。ち。あ。や。ら。

やそくまき

鈴木秀直

〜はぎたまふ。大國を。あまらみかめ。けりまはる。
やそくまき。か〜〜。かみ〜〜。大みか。

みあも

羽田俊彦

あまら〜の。らたう。あまらひらき。み〜〜。
よは〜のまひま。あまらか。御子のみ〜。あ〜。

道のま〜ん

川越秀春

はく〜かたを。國はちを。あまの御神。はらまはる。
おほ國。め〜。ふたか。ふ世。あひな。道をぬ。

古事

桂譽重

遠きあろぎの神代。まはる。まら来ぬ。ふれ〜。
明ら〜。あめはちの。ま〜の道。〜。

ニッ緒琴の音を聞て。か〜けぬの社。な〜と。なれ。ま〜の。乃〜。
あ〜の。ハ國も。治る。八雲琴。

和栗春望

吉備の中山。と。〜。國を。守。この宮。西。の宮。と。昔。う。秋津島根の。花。と。
〜。ひ。死。渡。ま。か。は。音。実。も。尊。の。死。御神。の。歌。

真名井真琴

春秋

神と君。と。ニッ緒。ほ。ま。れ。を。も。や。ま。は。る。天の沼琴乃古。こと。心。ま。う。け。を。
春。ハ。花。秋。ハ。窓。も。の。月。け。は。け。は。を。あ。〜。ん。

安道

ほ。れ。を。ま。を。ま。は。ら。ま。は。け。は。面。白。ハ。雲。小。琴。の。ニッ緒。の。神。の。御。心。
我。心。ま。〜。あ。〜。引。時。ハ。は。み。け。れ。を。ま。う。け。り。

貞琴

須賀の小川。ふ。み。を。死。〜。清。き。其。名。を。う。〜。由。今。は。は。る。傳。は。る。神。と。君。と。の。
ニッ緒の。琴。は。あ。〜。を。心。は。〜。長。閑。の。海。世。ハ。は。ら。う。を。ま。

同 安琴

宮比の道乃主と申す。宇受賣の神乃幸ひや。雅調を学ひ糸竹に志す。此の音はたえせぬ。家内を小睦しく命も長く榮ふなり。日 八雲琴舎子(琴)

此大神の大前小八雲小琴を搔き侍り。倭の大君は此大神を御世と仰せり。安んじけく臣民を教へり。よりよりと御記する。日 琴 主

此琴は音を度しめし。天降る神國は神雨風虫はさけり。かく。今足穂の。いづれを。長五百秋益人よ。あええと御記する。日

旅路のたゞる雨雲を科戸に神の神風ふり。吹拂はし。神まつ。むす。宿。み安んじけく。つる。夕へ。青風の神哥。い。日

御霊を祭つて。手向ふ。八雲小琴をかき侍り。其古へをなれ。志の。い。あ。野路吹風の音。つ。を。度。し。を。御記する。日

八雲琴譜外曲種々組

神樂振

大宮

榮木

催馬樂振

大宮

青柳

新年

梅が枝

出雲舟歌振

御飾

浦廻り

八雲立

伊勢の海

我家

序祝歌

新玉

御飾

此殿

春の彌生

四の季

月華

長壽樂

小簾戸

浅茅原

昔男

姫小松

花橘

秋の始

友千鳥

佛御前

筑紫振

初春六段

雲井の曲

越の曲

都の錦

長き夜

嵐山

玉矛

八雲八景

若菜組

松竹梅

八幡

若菜

琉球組

水垂

はらうえ

九たん

早船

八雲琴譜外曲組目録

神樂振

大宮

大宮のちゆは... 玉ちり... たり... たり...

末

たり... たり... たり...

幣

み... 神に御...

末

み... 神の御手...

榊

榊葉の香を...

中

神垣の御室の山...

末

末

志げにあひむきを。
栄木葉ふゆより志をたがせぬ。神は御
むらふもむらふも。
霜やたじわいせぬ。神葉の立栄ゆるき
神のまねも。神はまねも。

催馬樂振

新年

二段

三段

梅ヶ枝

二段

三段

あたしをくく年の初めよかかしく。花を
かかしく。花ははるく。花ははるく。花ははるく。
あまねれはまよしや。萬代まきん。
梅ヶ枝小東居る。鶯や春かきく。あれ。
春かきく。鳴くも。雪のふきは
あまねれまよしや。ゆきのはるく。

大宮

青柳

二段

伊勢の海

我家

同

大宮の西はらにあまねたり。たりや。
青柳まき。かた糸はまよしや。花ははるく。鶯のねや。
鶯のねや。ふらふら。梅の花は。
伊勢の海は。清き渚の志をひふ。なぬをけを。
花は。つらん。かひやひるん。或玉やひるん。或
我家の。むらむら。たれら。大君まよし。
むらむら。あまね。あまね。あまね。
あせとらん。あまね。あせとらん。

出雲國舟歌

序祝歌

あまね。あまね。あまね。あまね。
あまね。あまね。あまね。あまね。
あまね。あまね。あまね。あまね。

横山 慶琴
織琴
日 佐草 零琴

あつきの年。始の初夢。草なき山の樟乃木を。船小造り
今わらわら。白金の柱押立。黄金のせみを。水繩手繩の
琴の糸。綾や。錦旗帆小か。寶珠嶋へ乗込み。思ふたを。
積りけり。蔵へ納め。ナレホ

御飾 鶴龜 去 渡邊水琴

先正月の御祝。鶴亀小松と竹。千歳も万歳も。切其外。限り
代々御世。茂ゆつる葉の。志あんな。ゆり御か。み。くも。御代
おもかけの。此つらも。常盤の。若み。どり。栄え。く。國々の嶋
一つ小ゆ。是の御家も。賑ひ。富貴の御世と。成り。イハヒ

此殿 家造 去 中村守臣

此殿。人も。富々。草の。三つ葉。四つ葉。水莖の。若や。たつ
植柱。ふ。建。殿。つ。い。う。い。う。ぬ。ふ。さ。な。ん。庭。の。玉。枝

あを敷く。鶴の雲井を。あふさ。若せぬ。薬た。く。まる。龜ハ千
尋の浪を。け。寶の山を。奉る。た。ぬ。も。御世や。君が。代を。萬世迄
ぬ。い。ひ。く。れ。ナレホ

みむき 去 右葉 去 横山系葉 中村守臣

みゆき。春の。園。袖。ふ。七つ小女郎。右葉。つ。薺。摘。催
七草。み。揃。此岡。小。往。來。の人。も。ま。ま。の。小。女。郎。宿
や。我。小。教。へ。よ。位。里。を。我。も。尋。く。妻。み。せん。妻。み。せ。の。我。妻。に
は。ま。せ。う。の。れ。も。切。た。る。い。づ。れ。ん。そ。の。小。女。郎。申。出。
つ。小。旅。人。た。び。の。殿。ち。い。い。細。い。と。れ。や。れ。も。ち。の。小。舟。も。沖。哉
あ。ふ。い。み。船。も。沖。を。さ。る。関。の。小。刀。身。の。細。い。綾。も。た。ら。い。錦。も
た。ら。い。細。い。ち。や。も。葛。か。ら。い。れ。大。木。も。巻。こ。め。る。明。く。三。月。種。お。は。し
五月。さ。び。き。苗。植。く。秋。の。稲。穂。も。ま。て。待。井。手。の。下。紐。志。た。ひ。は。し

もつや思わく千代の契了浅日なまたもあれたらひの殿

勝色ノリ 陣立去 大岸元琴

初春の雪氷おどりの着長小櫻おどりの成ふ夕を扱又甚々

郊の花よ垣ぬの水みあはひ皮秋み成るの甚色いつも軍ふ勝色の

紅葉いまも錦皮冬の雪け小空晴り塊の星の菊の座よ花や

身こそくられ思ふ敵を打取り我名高く攀き上る劍箱

小納めわく弓矢袋を出しと戸さぬ御世ふ成ゆき

浦めぐり出雲瀉去 坪内好琴

はるくや宇龍溪を漕出主の神教え此舟東風を受取

女鳴男鳴をけせまを鷺の明神并拜も加賀のけけを詠

流江角小浦波漕廻野波手ゆひ多古瀬崎雨もふりや

笠の浦関は明神み拜み東もろく小詠む大仙御山小雲積

冬の景色も面白や小歌一つ緒かき濱の子酌網かけ諸食の日向御
崎を走過都々のあはれ受取り名ゆかむたり越前の美玖
迹の河小納わ

奥 八雲立ノリ 大蛇 去舟中ニテ夏イハシ 琴 主 調

天降る鳥上山の松檜脊生く俳個八股大蛇を尋ね速瀬佐

の男乃功哉いゆ多羽小言問ん中もを思た其火女我小得させ

妻ふせん妻小得させ八少女の敵をほろやちまひる酒を

もハ志を成し大蛇の意ひくあはれきくけりく尾吹き

け其血流く肥の川の浪もあけや成小なり靈劍の高天原小奉

其時八色の雲の立を御覽千早振神の心もよと八雲立

出雲八重垣妻籠小八重垣つる其八重垣哉

古人の今様

春の弥生

春の弥生の曙小方の山邊を見渡せば花づらりも白雲の

四季

かららぬ峯をちりちりとも

月花

春ハ梅小鶯其の涼きやう水秋はゆやき空の月

長壽樂

冬のみゆのゆき
雲の懸る月のおちめ風のちり花の為雲と風との有
てとや月と花との尊れ
熊澤了芥

小簾戸

人ほどはびりかめ人のつらとつら
常小つらつらつらつら
月の前のおちる誰を待の影をんたそん近き小簾の
戸小まの人のねもかげ

浅茅原

古き都を来り見ればあまらうとあれおそり月の光は
とあわて秋風の身を身はらむ

昔男

昔をこも身はらむ残り言葉の花は猶春や昔のそら
ちんどげると今も白ふたを
本居宣長

姫小松

君を祝ひ引時の子代も経ぬへ姫小松御前の池乃
亀岡小鶴をむね遊ぶれ

花橘

軒のあやも白ふたを花橘も薫る夕暮さの五月
雨小山ほとぎ名の名

秋の始

秋の初め小成めれ今年も半はを暮ゆる我世更ゆる
月げのめたむ見るとそけり

友千鳥

みちひたるおの山は出の磯は友千鳥君うよけを
幾子代と聲もゆる鳴る

月の詠

古都ふほくと秋の中をふ海を来て四方の山へをたむれぬ
樹々の梢も錦せり昔月八かきと啼虫の音はあはれなる

筑紫振

初春 六段

琴 主
山内賀琴

初春の光を長閑小天の下。くまなく照らす君の大御世

雲井の曲 櫻盡し共

梶谷壽惠琴
八雲幾琴

雲あけさける山楼霞の間よまげのゆも。見初し色の初櫻たをぬ

詠九重の都がらうの花のあれも。なれあつきの江戸櫻名小真

洲の花ゆら誰も。うき身をこがれ塩竈桜花の振袖八重一重。下ゆ

むくのひ桜や。かき小浅黄ま。くまきせ。まけよきぬの糸桜引く

あまたの身われや。せまき一夜たをひれ小。名ひまきや。熊谷

の。たつき心の席の尾乃千里も通ふ恋の道。忍ぶやつ。き世を捨し墨染桜

君がなほけの薄桜。や思ひのまるま。やつ。き世を捨し墨染桜

昔を思ふ家桜。花のよほそのはびり。き月影さへをけく。闇

三ノ六

あやなう紅梅桜色こそ見え折袖の匂い桜や菊桜花の白露

春毎小。あなうきも子代はるる

越の曲 志ちおど共 京 西村三千琴

あなうの。於國名物さま。や。田舎をまの。かた夏ま。白菟

を。言の葉乃。面白く。さうれ。猶る。浦の。あまれ。子。七つ。八つ

目。れき。追。む。や。あ。み。の。綱。手。の。戀。の。心。を。米。山。の。遠。き。う。い。ま。い

あ。ふ。き。ん。か。名。小。い。と。い。川。系。芋。ま。の。も。れ。も。は。り。草。村。の。油。り

や。交。り。未。松。山。の。白。め。の。ち。み。も。だ。の。ど。ら。ら。見。え。る。國。乃

風。流。を。移。し。太。鼓。や。笛。の。音。を。聞。く。う。た。ふ。や。獅。子。の。曲。向。小。山。の

志。ち。竹。枝。節。を。ろ。る。き。ま。を。こ。は。り。小。十。七。が。む。ろ。の。木。口。小。登。三。株

花。の。懸。り。線。夢。小。見。る。後。夢。の。う。か。た。越。後。の。志。ち。牡丹。を

持。ち。ぬ。富。貴。の。た。か。さ。安。小。は。る。を。ま。い。を。は。む

人のちりほひさあをせん

八雲八景

佐草文清

八雲立出雲の神いもとせの結ぶの道哉守りま。高き山やき
おちちへ。契もも長きたく繩を結び合せく千木高仰く宮の
灯火小我初戀のねもわづら照らしてつ葉取かく玉はさし浅
らぬ思ひの筋のさへく八雲の山乃梢吹風のたよもなつこも真
名井の流未清く長きえゆきを結ぶ心のみきたぐさる関屋
の松は深きより深きなけを見崎山月の光の秋毎小かきく下は
まが川や流るるをれとわ小夜千鳥君が鈴をちりくと鳴音も浪も
高濱の夕は雪の友白髪幾万世もかきくのたをく流るる出
雲ぐ。沖小たゆふあま小舟釣る糸のらたゆきを此二つ絃
あつるるくくはん

若菜組

若菜

八雲琴舎千重琴

年はまだ幾かもたわ笹竹小今朝よゆやく春風の我志る顔小
鶯のもしよるるの音小たてうたひつれたら火女子うつひや千歳
の初若菜若菜つむ手はやゆさふ梅が枝ふさしづるもちり
は聲そへい色はへ音さへめてたき

松竹梅

大膳亮三千琴
佐草春琴

立渡る霞の空は志はくへく。長閑き光あ玉の春立今朝はあ
引の山路を分くあふ友の三つ浦小東鳴鶯南より笑ひさむ香
る小引れ。聲のうへり。葉風小ちりや花の色も猶一栄あ。此
里の難波ハ梅の名所君が世ハ濁らるる御川水。未はみま。
國民も實ゆくく四もの海千歳かきり常盤木も今世の並小

引^{ヒカ}き^ハく^ハ。幾^{イク}世^セか^カき^キる^ルも^モあ^アく^ク吹^{フク}音^{オン}枝^{エダ}も^モ柴^{サキ}ゆ^ユり^リ右^{ウチ}み^ミど^ドる^ル。生^{オホク}立^ク松^{マツ}小^コ
巢^ス成^スく^ク小^コ鶴^{ツル}の^ノ久^{ヒサシキ}敷^{シキ}御^ミ世^ヨを^ヲ祝^{イハ}ひ^ハま^マ。秋^{アキ}の^ノ猶^{ナホ}月^{ツキ}の^ノ氣^ケ色^{シキ}も^モ面^{オモ}も^モや^ヤ
葉^ハ赤^{スエ}く^ク小^コさ^サの^ノひ^ヒの^ノあ^アく^クど^ド小^コ移^{ウツ}り^リ夕^タま^マぐ^グれ^レ。そ^ソや^ヤも^モ小^コ虫^{ムシ}の^ノ聲^{コエ}に^ニ
か^カけ^ケて^テ幾^{イク}と^トは^ハ秋^{アキ}小^コ鳴^{ナク}音^ネ成^チ吹^{フキ}送^{オク}る^ル志^シく^ク小^コ法^{ホウ}と^トく^クそ^ソく^クく^ク心^{ココロ}の^ノ
む^ムく^クあ^アけ^ケし^シ。

佐草梅琴
平岡松琴

みだれ

ハガム

九ガム

琉球組

早舟

はくろん

中山司琴

以上三曲ハ筑紫振本手歌本小あれが爰小畧以
されども少女の手ははひふちあはれめんとして出

八雲琴譜外曲組 畢

八雲琴二百吟

弓をもちて造る初々む琴をねむる及成りて子や有見國造尊孫宿祢
撥たつて八雲小琴の音を吹は神代のもどり志のまはりく出雲内孝宿祢
世の中はよほひひの物の言は中ふまぐれハ雲た手琴同 俊栄宿祢
生弓の神代乃音引くこそ八雲小琴のほろろをそそた々女 同 勝孝宿祢
月見つ我宿ふけをどけりはをねよこつたむ小琴列あり 同 龜麻呂宿祢
凡琴たりの日線はふ家毎に引くんねのなまらるるも千家森子君
其神の志くふ通ふ琴柱れ天々地々の二つ弦や〜 島 重老
八雲立出まの神は奇しくもよけ給へる二つ弦のよと 佐草美清
玉楯負二物く〜舞の籠も引くあまの母はや兼武 平岡雅足
八雲てふ其名をねく二つ弦の琴はほろふ神代はほあ 同 左屋琴
二物糸面白き志く〜れ神代も〜言にかなひはつ 佐草文清

八雲玉神の古歌を引時ふたに妙なるも残つてつ
 玉掛角二弦の琴此通筋を用くも神のんわららん
 ちりまぐくゆりく言れけえそりそをいふの二弦の舞
 二筋の糸もたふちる志るべも神もたぬもけりしえん
 神の代も海よ八雲は志るべも天津少女も神久はらん
 八雲玉出まきの琴此清きねの神風よもや志るべ初らん
 海も山石にみも舞の志るべも神の志もあつらん
 かまねの出まきも山石の歳も代もけりしえん
 極めらん唐の志るべの教も八雲玉舞は志るべもねん
 二筋の糸もたふちる志るべも神の糸もあつらん
 ちりまぐく八雲玉山石は志るべも神の糸もあつらん
 舞は志るべも川の川も少敷もも海も志るべも二筋の糸も

島重胤
 千家之正
 中言林
 竹下孝理
 島重稔
 佐草武清
 北嶋孝治
 佐草繁子
 赤塚景琴
 北島栄子
 同 岩琴
 佐草定琴

三十一

奇しくも殊なる方分八雲玉舞神事よもや造里出らん
 八雲玉掛角の舞も志るべも神代むねの志るべもねん
 八重垣の其文かみも志るべも海も志るべも神の糸もあつらん
 神は志るべも海も志るべも神の糸もあつらん
 宇加山の松乃茂の海も志るべも八雲玉山石は志るべも
 舞は志るべも天津水鏡押せりくねも志るべも海も志るべも
 初来ハ唐人も志るべも海も志るべも神の糸もあつらん
 天ひけ國も志るべも古人の神は志るべも海も志るべも
 妹と脊の二つを糸の教も志るべも玉掛角の志るべも初らん
 玉も志るべも二弦つちも舞も志るべも海も志るべも
 鶴山の志るべも志るべも志るべも志るべも志るべも
 神の代乃例引く造里なる八雲玉舞も志るべも海も志るべも

平岡縁琴
 佐草中琴
 中村守臣
 同 守手
 中臣正蔭
 富永芳久
 坪外昌成
 加藤昌晨
 廣瀬清左
 田中清年
 廣瀬綱銀
 高木年影

いんいんいん八雲小舞此二節小舞代の事を細を初ん
 あい鶴も公も小舞の奇もさるに子舞代は公聲合也
 けいけいの地もさる小舞代は公聲を捨まつりけい
 吳船も吹くをけいもさるへれ公聲を舞ハ神風此れ也
 藤守此舞の松風西ひ舞の海も小舞に公聲を旅も
 藤守の神にりふも小公聲も舞も向もけいもさる
 神歌のけいもさるのみもさるへれ公聲を舞ハ妙なり二つ節の舞
 此もさる舞は公聲もさるや舞ハ公聲の山代舞の松也
 舞ハ公聲のさるは公聲を捨まつりけいもさる公聲も
 舞ハ公聲の又西ひ舞ハ公聲を公聲舞の節やまはる
 大地の公聲もさる公聲も舞もさるぬれは舞ハ公聲
 此舞代のさる事此二つ節もさる舞ハ公聲もさる

坪内忠臣
 西村政芳
 佐々壽忠
 藤間弁琴
 加藤藤琴
 中山司琴
 坪内縫琴
 廣瀬哉琴
 坪内橘琴
 熊代雪琴
 同 信琴
 西山須尚

三十一

わる國の神もさる物言の榮此雅調也さる公聲も舞
 少事に此舞の奇もさる公聲も舞のさるもさるへれ
 此の代此天の治舞代二つ節の舞も公聲もさるもさる
 ハも公聲も此舞は公聲もさるの音代もさるもさる
 松風と方にさる公聲は公聲もさるもさるへれ公聲此
 公聲もさるも此舞は公聲も捨舞ハ公聲もさるへれ
 公聲もさるも此舞は公聲も捨舞ハ公聲もさるへれ
 あたりもさる舞もさる公聲もさるもさるへれ公聲此舞の雅調也
 須佐の男此舞の恵の舞も公聲もさるへれ公聲もさる
 子も公聲も此舞は公聲もさるもさるへれ公聲もさる
 大舞に公聲も公聲も捨舞ハ公聲もさるへれ公聲もさる
 二つ節の舞も公聲もさるへれ公聲もさるへれ公聲もさる

勝部忠利
 山田真雅
 古川龍琴
 中村寛琴
 朝倉貞琴
 同 仙琴
 景山久隆
 横山真恒
 同 慶琴
 同 織琴
 同 糸琴
 野崎武翁

八子立出まゝてふ君の妻舞に神代の風や吹ぬらん 京 一条忠香
 玉ちりふ神代の琴を其まふ君をいひて誰の月夜也 日 中川長雄
 たまきけは八の徳の舞成捨合せ志ふべし 日 六人部是香
 かゝり神代の内教をとりて志ふべし 日 高津求遠
 大君の清世を平らふ引かゝり八子小舞ハ神代はる物 日 内山宗琴
 二の物に姉衆をよそふ出まゝ其れも誰にむすまふ 日 富江八十琴
 八子立出まゝ生れぬ玉にやと雅調の二重ちの系 日 宇田千枝琴
 か茂川のゆきも多代の聲まゝ八子小舞に由ひ鳴ん 日 江馬静琴
 系竹の調ハ神のそ成誰くも由國にのりて舞はる 日 永野貞厚
 鶴を飛せし神代山吹風い志ふべし 日 同 政琴
 松風の面ふゆより二の物舞のいふのまゝもまゝ 日 長谷川元琴
 武士は道と八子の舞は言に舞く捨たれ身は女也 日 大岸元琴

三十二

搔かゝり音もむつまゝくつえなり八子小舞ハ二の物の系 日 岩本養琴
 節毎に松空成あゝそ長く系音はなはゆゆ 日 新宮松琴
 ちりねまを八子小舞に捨まゝく九子はあつふらん 日 源清清琴
 舞もまゝく舞まゝく神代の八子小舞のいひ鳴ん 日 麻生梅琴
 天地の神もつまむ神の舞君が由國の直まゝを 日 井上正兼
 玉舞流石出まゝは舞ハ神代舞甘美志由神や遠く 日 中条信禮
 うねりまゝよそふ八子小舞ハ神代舞んまゝを誰かんと 日 同 由支子
 八子立出まゝの神の由舞を八子捨たゝり八子小舞ハ 日 多紀元堅
 舞舞たゝり神の由舞も皆毎にのりて舞のまゝふ 日 大膳道敷
 神の代は舞のそ物初功まゝも君もあはれ 日 吉田郷脩
 天は神國の由神の二重をまゝ捨たれ八子小舞 日 久保季茲
 八子立出まゝの山花のまゝもまゝは舞のまゝまゝ 日 島津淡琴

天地を偲小業えん二物の糸音奇きき君の玉出や
 神と君二位ふけく臨すは清空をたなびつる玉舞
 たり舟のそよほ葉らん出を響けりも響き響きとまなる
 大鷗の道成事笑二の臨の心も小舞小引うたひも
 清室の敷を志うづら心も舞君が多葉を引る中一は
 祢き事もつらも捨く舞ははる小歌を延る心も安んれ
 結わられ流むおひも琴はきかへけりも響きとまなる
 武蔵野や引く志うづら舞の音も小出秋の月もまなる
 神のゆら君が歌を二の臨ふ響く捨けし事もたなび
 系たへ小捨たは君の舞の音にまやまなる北山の松風
 松風の舞は流るる舞はきかへけりも響きとまなる
 二物は奇きき八も響きの臨小神代の風や海はあはれん
 長谷川梅翁
 柵原琴翁
 石村政琴
 大膳亮章叔
 若園榮琴
 石村挺琴
 雨宮道琴
 湯川知恵琴
 舟橋近琴
 伊藤辰琴
 久保權琴
 平田庚琴

神風の通ふ心も此舞の音も君の心代の音や常ん
 母にめはれ八も響きを臨初く嬉しき事もたなび
 天地の舞は流るる舞はきかへけりも響きとまなる
 流るる和みも心も二の臨ふ再神の引發りも響き
 八も響きを臨初く嬉しき事もたなび
 大神の流散うたひく二の臨ふ君が多葉を引る中一は
 音のまも出を響けりも響きとまなる
 宗像の海門の海の沖の浪も心も舞の音にまなる
 高登たる園は松の影も心も舞の音にまなる
 うたひもたなびも心も舞の音にまなる
 神さき心も舞の音にまなる
 捨たをたなびもあはれも響きとまなる
 齊藤沖琴
 長嶋幸琴
 鈴木重胤
 後藤一琴
 岡部東平
 窪峯戊申
 佐藤信古
 鈴木重兼
 佐藤忠琴
 同 琴子
 斯波專琴
 山本善琴

孝譽可雲

平井東琴

同 春琴

深道院

近藤益春

同 益載

川口竹琴

松阪震琴

竹鶴長琴

加藤八重子

加藤喜秀

三千四

竹内音門

井上拘睦

小野幸琴

林 春景

近藤須賀夫

黒田琴臣

同 清琴

同 琴翁

同 重琴

同 守琴

同 菅琴

同 綾琴

皇の侍をよめたる小引かきり公を小舟ふらふ日 同行琴
 八雲立出まきの神もめがまきく君の事とや稱へし日 木村素琴
 玉ちふ神の八雲の琴はさるる皇の侍小舟とゆくらん日 林 彼二
 松風の面ふ八雲の琴はさるるも神代りん松をまき日 小野神琴
 琴歌小舟も松をまきくゆらせ八雲小舟のあつね日 和栗雪琴
 月夜く程をさるる玉の面もさるる松をまき日 同乃琴
 八雲立神の八雲の松風小舟とゆくらん日 同安琴
 天の下安く松をまきく八雲もたれもたれもさるる日 和栗小枝琴
 其神の侍歌うたひく二つ松の八雲の琴をまき日 小野真琴
 月星に二つ松の面をまきく大雲に面ふやまの松日 加地田鶴琴
 神の面ふ神の引かん久々の天の面ふ松をまき日 藤井琴醉
 松をまきく八雲の面ふ神代の面ふ松の面ふ日 山内賀琴

三ノ十五

美代も君の面ふ二つ松の面ふ松をまき日 小野琴持
 多代も君の面ふ二つ松の面ふ松の面ふ日 天野万琴
 玉ちふ神代の面ふ二つ松の面ふ松をまき日 天野半仙
 松引ひも心の松をまきく神の面ふ松の面ふ日 同 香琴
 琴の松引ひも心の松をまきく神の面ふ松の面ふ日 藤田琴臣
 八雲立神の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日 兒玉柳琴
 神風の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日 佐伯琴華
 八雲立神の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日 吉村浦琴
 八雲立神の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日 兒玉秀琴
 八雲立神の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日 村井榮琴
 八雲立神の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日 小川則琴
 八雲立神の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日 竹鶴尚琴
 天地の面ふ八雲の面ふ神の面ふ松の面ふ日

紅葉のよきと薄き流二つ流小滝く出まの琴に松尾 澁谷景琴

八重たの出まのゆる皇神も又宗不舞此言流やせらん 諏訪信古

非きつ八重少舞此二初小海二二葉の又水のま流風 仁藤玄哉

那須の原を松を以て其にたぐく尾の音を玉鼓 小西為琴

とけは流のゆるせはらん八重立出まの非れめり少舞流 藤塚知雄

志るべあひくせだふ清し出まを舞々を神代お引やへまん 岡 惠琴

杉嶋や松引舞の音とたのみのくま流まうまは付流 柚木玉州

二つ流の舞けは流の二初小松引舞小恋一からとる 坂本道琴

非きつ八重少舞に海らん流くこのやまの非れ松風 中村君琴

流まの三保の松風曲いま八重少舞此言をさやの 齋藤揚琴

玉櫛等二つ少舞を初く非代かくと志のぐれおさる 安井紅琴

三ノ十六

少初八重少舞の出まの山よりたうき君が流ま言 同 留琴

皇國の非かろゆる言の紫此雅調をいふ金玉舞 鈴木鈴琴

二つ流此舞のゆるまへ八重流の湯山の峰れ松風 酒井松琴

八重立出まの舞此琴頭小言くぬ非のあうまを思ふ 同 貞琴

つらゆゝ引物らん松たえ天の流舞を八重少舞より 同 幸琴

八重少舞二流小舞く君が言の舞母よけ小龜山のま名 柳田良翁

多子振非代も今も二つ流小松合せたりこれの玉舞 野田正親

天津非の光を流二つ流の舞に葉ある流をめぐり 田中耕琴

天地とすれ葉ん二流の八重少舞のまをこまをまのり 岡 くの琴

出まのゆる非の恵とゆる程志らん妙なり八重少舞此言 久保倉正意

天地の舞々なり流二つ流小舞くかかるとまへ流の礼 足代弘訓

さやわりのわりの高根のまをおよる八重少舞小海し松風 河野浦琴

そら清くけけなり高く舞はる小志へ戻たりさの神風 望月玉琴

舞はる北風なる三輪の山松小舞ゆせあはれなる 荒川重郷

誰々有公室小舞に交はるるにさの神風の浦風 西田惟恒

舞の音に清のあはれおのりやまの玉琴にまは 玉津島房生

あはれなる花の香清なるにあはれなる小舞に 宮崎久徴

あはれなる葉を事なす八重の松をけけけけ 森島琴翁

玉ちけ小舞とるの二輪小舞の舞をさやわたり 津守德基

清くけけけけ小舞の音にまはるる葉を神や惠連 加満田増琴

住のほの岸に松風志へまはるる神の音にけやうなる 鈴木榮琴

かしくも清の清なる二の輪小舞にけけけけ 達手千尋

舞はるの浦に松風小舞文と公室小舞にまはるる 吉井良琴

舞はる小志のまはるる但馬の舞に山の神もけけけ 西村琢堂

敷鳴のそは葉をさるるけけけけけけ 宮本美秀

針伐小舞と公室の舞はる小鬼の神も葉やまはる 北崎鬼琴

九重の志のまはるるけけけけけけ 朝倉心琴

香る北風と志のまはるる葉をけけけけ 武内春琴

あはれ清なる引風の神風の清き清ふゆけけけけ 藤井高尚

二の輪の志へまはるる葉の浦吹海に松はれまはる 大西源琴

清きけけけ浦吹小松風の清なる公室の舞のあはれ 中村清琴

玉ちけけ二輪の清なるまはるる葉の浦にまはる 楠田雄琴

詠はる葉をさるる針の清なるまはるる葉をけけけ 平松雅琴

あはれ葉の葉清なるまはるる葉をけけけけ 宮本守親

異作のそは古事二の輪小舞とるるまはるる 音琴

飛翔の言葉に葉をまはるるまはるるまはるる 直琴

出づる如くも少無を縁文のゆへにまをさるる人なりと云々
 山本包琴 ヒゼン
 務らと事しそはたさるる後子少振神代ふるまふ二つ後のみ
 内藤高行 ヒロセ
 かけさうと神代とくに捨たうけのまをさるる人なりと云々
 田部長翁 吉田
 岩倉戸の神代也と云々のふらん二つ少無のまをさるる人
 藤麻貞琴 ロゼン
 岩倉戸の神代也と云々のふらん二つ少無のまをさるる人
 永田元盛 トシ原
 少無振神代也と云々のふらん二つ少無のまをさるる人
 永田元治 丸山
 岩倉戸の神代也と云々のふらん二つ少無のまをさるる人
 景山延九 トシ原
 樹ふらふら一は無のまをさるる人二つ少無のまをさるる人
 田所元顯 アキ
 少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 野村繁民 日藩
 諸神のあまをさるる人少無のまをさるる人
 小鷹持元琴
 少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 林存威
 日代少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 竹本新琴

三ノ廿九

ゆへにてまをさるる人少無のまをさるる人
 飯田立琴 アキ
 日の幸無のまをさるる人少無のまをさるる人
 真木真琴
 浪賀川ふらふら神代也と云々のふらん二つ少無のまをさるる人
 大崎関琴
 岩倉戸の神代也と云々のふらん二つ少無のまをさるる人
 難波成琴
 國川の古もまをさるる人少無のまをさるる人
 赤田謙琴
 八子少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 宮城琴守
 風流坐のゆへにまをさるる人少無のまをさるる人
 戸嶋忠琴
 二つ後のまをさるる人少無のまをさるる人
 野村千代子
 あまをさるる人少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 岡田元子
 らまをさるる人少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 赤田八重子
 二つ後のまをさるる人少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 宮城節琴
 梅又のまをさるる人少無のまをさるる人少無のまをさるる人
 日 民琴

父母の二子の母を子孫に傳へし業を勤の志を承るむ ヒゼシ 三宅哥琴
 八雲を立出せし母を引く神の御心とてききし徳を承る チタ前 安部一任
 天竺の二子もむねく二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 深田氏刑
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る ヒコ 愛敬左嶋
 これをもて世に傳へし母を引く神の御心とてききし徳を承る 日藩 松原惟一
 神のたえんせし母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 大久保只水
 八雲を立出せし母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 林 通貫
 神の志を承る母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 入江廣牙
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る フニゴサカ 山形典翁
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る 甲州 徳應松琴
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る 三ノサカ 萩井昇齋
 神の御心とてききし徳を承る 三ノサカ 麻師村将琴

二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る 東京 井上正琴
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 石村平琴
 夕暮の母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 松門三艸子
 八雲を立出せし母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 稲戸銀子
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る 日 嶋津淡琴
 玉の珠を引く神の御心とてききし徳を承る 西京 内山宗琴
 神の御心とてききし徳を承る 日 富江八十琴
 神の御心とてききし徳を承る イッモ 嶋 重稔
 昔神も八雲を引く神の御心とてききし徳を承る 日 赤塚景琴
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る サカタ 勝部忠利
 八雲を引く神の御心とてききし徳を承る 大ッ 山田興雅
 二子の母を引く神の御心とてききし徳を承る 八三山原 林 章琴

一人のよしとまのーハ云々よしとまのけし人の友 ^{備中} 和栗春望
 玉琴乃あつてつれつれ人の心結さすみゆを初まー ^同 直裕
 二筋の琴乃真可の深き色ハ由らぬとあれとつけそを子流 ^同 梶谷壽恵琴
 久くそはるの深きを移し来てあつて唯此を流結 ^同 小野真琴
 神流のいともかこじ上ツ代の神流也 ^同 瀧琴
 播たえー神代の深き移したるハ云々小琴成弾を歩 ^同 幸琴
 神と名の道あること成二ツ筋の琴小玉琴人 ^同 村上絃二
 二ツ筋の琴小引きそ志のひ移を志の ^同 西原洞琴
 成流の大和心を引おら神の傳人のハ云々玉琴 ^同 龜琴
 小字振神代の道をそ弱女のたるとあさといハ云々玉琴 ^同 阿藤惟治
 大神の夏あつてーハ云々琴ハ略の亦も書ふと ^同 惟原
 二筋のおのううなる女をのまの神の道 ^同 惠良豊琴

銀琴のたえー調を二ツ筋ふうけし神も書きたらん ^{備中} 堀 安道
 ハ云々立也を小琴乃二ツ筋ふうけし ^同 安琴
 二ツ筋の琴ゆいせの神うけし ^同 貞琴
 小字振神の深きやあつて ^同 小の先琴
 若くはの道をたらん ^同 家琴
 銘文再あつてーハ云々二ツ筋のハ云々小琴 ^同 春琴
 二ツ筋小琴社ひり ^同 清琴
 神代とらまを ^同 齊藤建琴
 播たえーハ云々小琴 ^同 朋琴
 二筋あつてハ云々玉琴 ^同 龜琴
 若くは之親 ^同 芽琴
 若くけを ^同 安原玉琴

二の弦小神能公や通つらん後小奇一紀老乃る琴之身 同 玉樹
 書法の新法よりハ書き事記す心のちりをけらん 角南道琴
 大御世をいつひつらう撫ふはハ書き事記すをけやらん 同 之琴
 出をなす神能公ハ書き事記すをけやらん 池上有琴
 二の弦の書富書ハ書き事記すをけやらん 同 竹琴
 手訓ても何れハ書き事記すをけやらん 同 實琴
 三の弦ハ書き事記すをけやらん 同 安藤永琴
 ハ書き事記すをけやらん 同 國頭琴持
 銀琴乃ハ書き事記すをけやらん 同 笹原正琴
 大君能あすか記ハ書き事記すをけやらん 同 國富幸琴
 加ハ書き事記すをけやらん 同 田中耕琴
 同 岡の琴

伊特諾伊特冊尊の侍言ハ書き事記すをけやらん 同 建速瀨傳之男命
 天の下承知食々時國作り物ハ書き事記すをけやらん 同 生大刀生弓矢天乃
 詔琴の神寶をハ書き事記すをけやらん 同 生大刀生弓矢天乃
 下を順るをハ書き事記すをけやらん 同 天の沼吾ハ書き事記すをけやらん 同 火政事を律
 令正一物ハ書き事記すをけやらん 同 其三種の神宝をハ書き事記すをけやらん 同 大國主命須勢
 理比賣命ハ書き事記すをけやらん 同 傳ハ書き事記すをけやらん 同 即其神宝をハ書き事記すをけやらん 同 天の下
 字主領給ハ書き事記すをけやらん 同 國作の大津業をハ書き事記すをけやらん 同 立させ給ハ書き事記すをけやらん
 たりハ書き事記すをけやらん 同 吾中山の大人ハ書き事記すをけやらん 同 幼童をハ書き事記すをけやらん 同 神武の術をハ書き事記すをけやらん
 たりハ書き事記すをけやらん 同 諸の流ハ書き事記すをけやらん 同 流ハ書き事記すをけやらん 同 流ハ書き事記すをけやらん 同 流ハ書き事記すをけやらん
 給ハ書き事記すをけやらん 同 時ハ書き事記すをけやらん 同 所謂六津をハ書き事記すをけやらん 同 以てハ書き事記すをけやらん 同 五音をハ書き事記すをけやらん 同 平

とろし。其の兼をいふは、爲りて、檢校のついで、結曲入
ぬき、そのついで、交傳へんに、おれぬ、いふ、人、事、と
嚴密、いふ、は、り、ける、お、ゆ、思、ひ、な、て、長、談、い、お、ま、り、中、二、寸
ち、あ、ら、う、行、は、れ、ぬ、も、お、り、う、と、二、冊、の、束、お、ま、り、み、づ、う
女、舞、と、号、け、今、世、の、流、曲、一、今、を、一、ら、ゆ、ら、り、調、ま、り
り、く、時、い、れ、た、ん、と、い、ふ、う、ら、ら、ら、永、永、六、年、の、も、お、ま、り
のが、ち、ぬ、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て
あ、や、一、と、お、ま、り、も、お、ま、り、う、ら、ら、ら、結、琴、の、お、ま、り、早、も、て
や、お、ま、り、う、ら、ら、ら、お、ま、り、う、ら、ら、ら、二、冊、れ、て、と、い、ふ、符

今、く、う、ら、ら、ら、今、く、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て
あ、り、お、ま、り、と、い、ふ、お、ま、り、う、ら、ら、ら、お、ま、り、う、ら、ら、ら、中、心、大、人、の、お、ま、り
う、ら、ら、ら、即、ち、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て
此、玉、の、浦、に、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て、曲、中
に、秘、書、を、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て、お、ま、り、ぬ
元、來、手、上、の、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て、お、ま、り、ぬ
唐、く、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て、お、ま、り、ぬ
け、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て、お、ま、り、ぬ
く、お、ま、り、た、い、お、ま、り、深、く、お、ま、り、せ、お、ま、り、て、お、ま、り、ぬ

皆初らこの方らと學めく。調は。拍は。といふものそ
紀え。まゝにみらえ。まゝにありて。道は。子平
う。おん。と。かん。や。ころも。彼出雲の大神と
此者。此の法神と。淨妹。妓の法中間。わ。し。せ
あ。へ。く。彼法。う。ても。奇。よ。神。昔。あ。り。く。同。じ
物。の。も。ま。ら。わ。く。く。も。人。の。ま。ら。く。昔。伎。と。鬼。は。ら。ん
あ。や。と。女。は。ら。く。女。は。ら。く。出。雲。か。ら。く。く。中。鳴。檢。校
太。社。上。宿。平。出。松。在。校
あ。ら。は。の。ま。書

太社上宿平出松在校

あらはのま書

改ノ五

八雲琴譜は書

い。く。ま。く。も。後。よ。ま。よ。ま。津御神乃。お。い。御。よ。け。れ
ま。い。く。巻。も。あ。や。る。の。こ。こ。ま。二。柱。乃。大。御。神。海。月。如
く。ま。よ。る。ま。と。は。ら。く。か。ぬ。え。は。い。一。時。天。瓊。矛。と。授。ま。て
と。何。ら。と。お。の。ら。と。お。の。ら。お。の。ら。好。く。く。好。も。く。論。へ。お。を
お。自。好。ま。と。た。え。れ。と。必。天。詔。琴。も。を。ら。く。く。舞。と。日。好。ま
お。の。に。ら。く。く。ハ。あ。い。い。ん。を。く。八。束。髪。建。速。復。佐。男。命。
天。下。と。治。を。治。ひ。一。と。う。葦。原。醜。男。神。の。所。あ。れ。は。御。世。
千。子。百。秋。瑞。穂。國。は。む。ら。ま。し。く。て。孫。子。柞。葉。の。母。の。命。れ
鎮。ま。し。根。堅。別。國。は。い。で。ま。し。治。る。也。ら。く。志。ら。く。く。夜

大穴牟遲命赤猪のまゝと比老夫のわざをひん筑はや後
 してやま磐石をまぎらうるれは遠祖の御許に玉をまきりて
 太刀生弓矢の御教と受給ひ須勢理姫命と嫡后と
 天詔琴も此現國は持御の治るること古史二典は明らう也
 天津神等より國作を終て天下治むべき法律と教をま
 ひりたるれ天詔琴の名をいぢちぢらく瓊牙琴の三種神寶
 乃始なりし抑琴の起原と考るよ二柱乃神と祖にして
 建速須佐男命は傳くをこれより國作大穴牟遲命は傳は
 くること記紀及出雲風土記に云くは
 神寶ともく天下と治め治るよよりて八百万神等こ形

海ゆきを水漬をいひ山岳を系しと屍と雄一よま心とて
 却之まつる治る也よりよ皇大御國を天地の始の時より
 今のをつれ大御代まで伊建きまよ有るし天照をいひる也
 比命ハ姫神よおろしませとことやある時ハ大御身よ韮かま
 負一^{オホ}大御もよ手より志違りまよるに治の権をけいひゆみ
 きまひ又御孫命の天降られた時ハ猛ま八十伴男を撰添給ひ
 神倭これたの天皇ハ昔けき御軍もくろまをとりてし乃
 大御はみくのすまらむと日嗣の少子れ命と申し付道と受
 けりてくこころをわきまうち臣等百の司乃人等よ其を
 よびひて権一くまつるこちぬれば四方の鬼神も都もて

雄々しく、何れもむは、中山琴主人ハ、梓弓やまと心の、
 利心乃直ぐ、御魂と物寧と、武士乃道と、
 志都の、神代と、薬師の道と、
 極之、谷々の、杖の、
 二猪の琴と、引山の神世より、
 道ハ、齋粒も、
 のを、
 かく、
 時、
 世、

跋ノ七

都を、
 もと、
 うち、
 し、
 や、
 乃、
 安政五年文月七日、

九月六日の夜。同郷の里正大教次宗藏といふ人。流布され
 けし。此人像のまゝか付つて。大田大明神也と詔給ひし事。
 中山大人ト云ふ。先年侍後國屋の通海也。あつたれ。まゝ
 神に。此中をたれ。神に。言給ひし。まゝ。せ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 其方年。た。ぬ。く。ハ。ま。ま。ぬ。く。心。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 ち。ま。志。を。な。し。た。ま。の。神。安。ん。大。明。神。守。護。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 之。方。初。め。門。人。中。に。も。喜。び。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。又。は。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 ま。た。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 其。の。歌。ち。や。ま。ん。降。り。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 此。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 少。大。正。法。を。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 其。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。

榮らけし。神に。御石大明神に。居る。や。何。事。も。心。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 少。大。正。法。を。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 其。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 此。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 奥。上。江。筑。紫。の。け。し。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 度。く。風。雨。濤。波。の。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 其。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 少。大。正。法。を。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 其。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 少。大。正。法。を。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。
 其。の。事。を。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。あ。つ。た。れ。ま。ま。

ビロゴ 壽の舎要臣書

君の為多み安うまことち神よあひはるるは八雲玉也
大御世に安くを行りて入と出と無に捨引考ハけ考
此考を人多き世に只神よ手向て御世を安く行かん

琴 主
同 同

